

類聚名物考

七

石三十三

雜部

類抄叢聚

和書門		八六〇二	函	架	冊
類	號	一八〇	一	一五五	冊

和書		一八六〇二	冊	架	函
類	號	一五五	一	一〇九	函

內閣文庫		番號	和 18602
冊數	149	(126)	
函號	209	104	



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



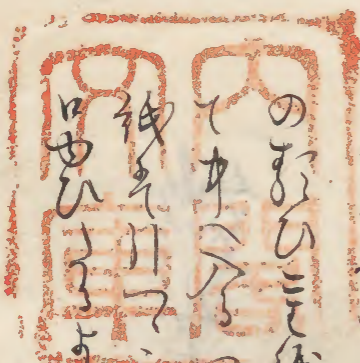
© Kodak, 2007 TM: Kodak



藤原公家書札



香壺



香壺



三足

浅草文庫

心葉糸花松

阿比巻子

黄

八村波儿

付糸村波儿也

上と壺の口つむやうに海を引くを以て
包儿室

香壺甚飾之式



紅白栴
ちりめん
ちりめんの
きれ花ルよ

け臺上
えき地

捲
結

け申大文
かみ

けけき

けけき

中
大
紋
白
比
飾

一 毬ひげこ



付
針
紋
式

結
黄
村
徳

包
二
ね
き

毬
形
丸
他
寸
三
四
計
丸
き
と
よ
し

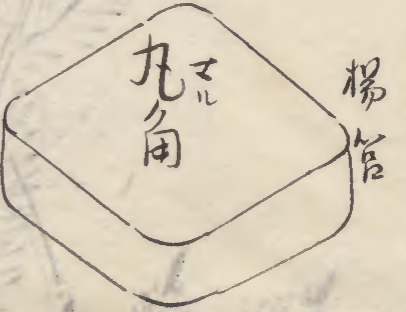
毬
丸
足
三
家
製
七
寸
上
計
意
の
丸
丸
と
紙
と
黄

針
紋
の
丸
丸
と

丸
の
丸
丸
と

一管の角子名はしり

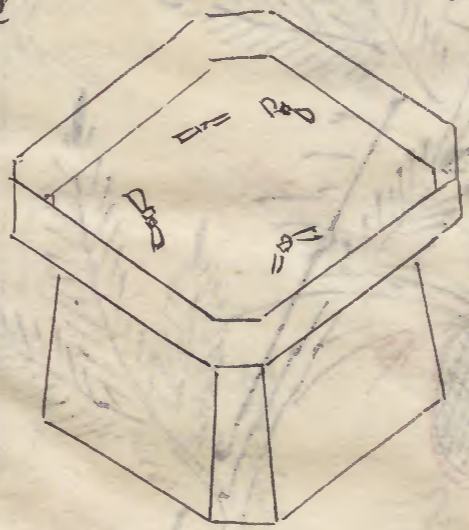
造洋管あゆ管



この名種を装束物に

一ツのり

衝重



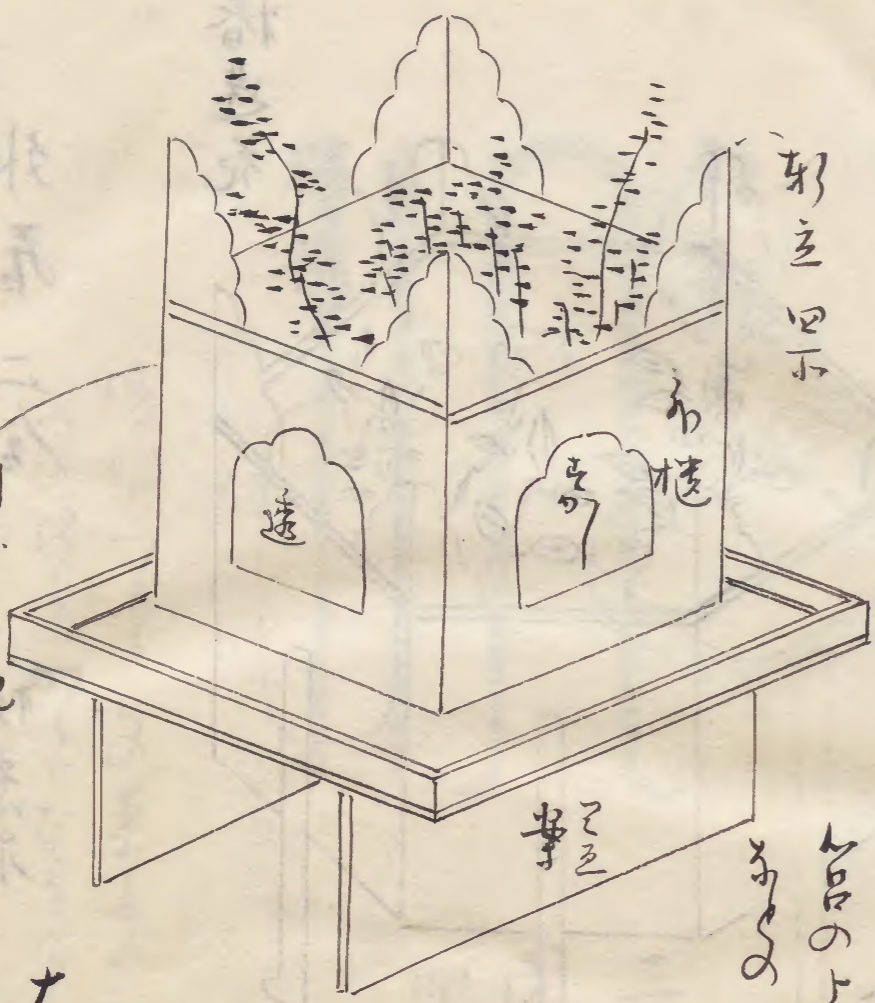
上の名種のあて

二つのり

あまのり

宝曆十三年癸未十一月廿二日

折立四下



箱の上の葉弁花

折立の箱二にこの上の管
白地彩色縹を内より又
管を縁をみし塗を縹を
中へ鏝鉦探餅入を
きんをりしをのり

大丁

折櫃

胡粉塗地

彩色縹

信明寺に折櫃のり

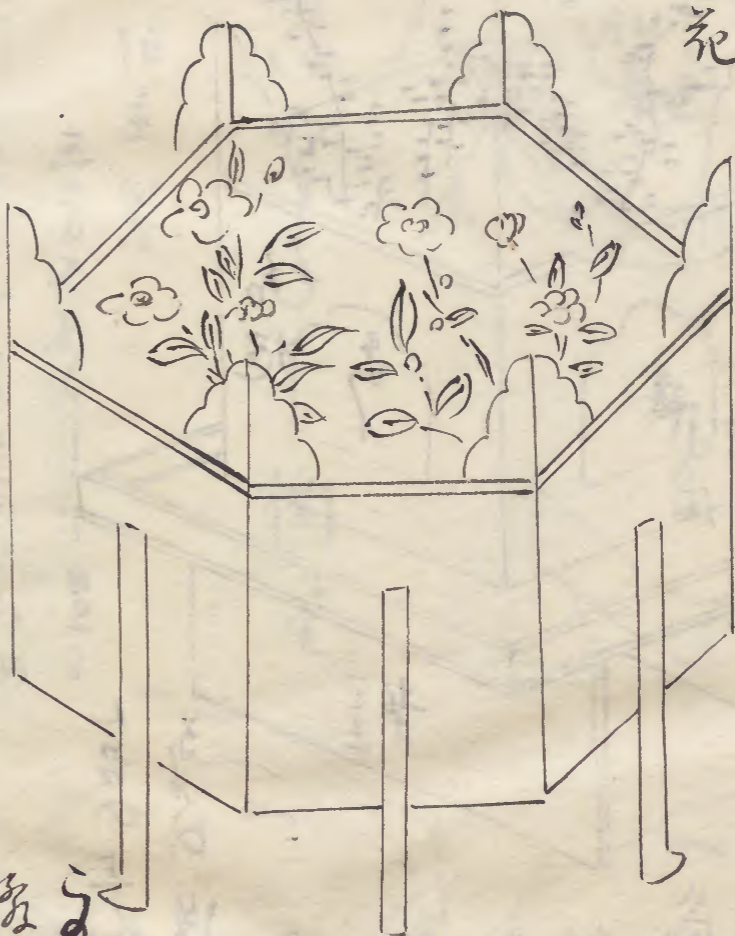
同時

外居 ふらゐ

二合 ふたあひ

枚 まい

椿造花

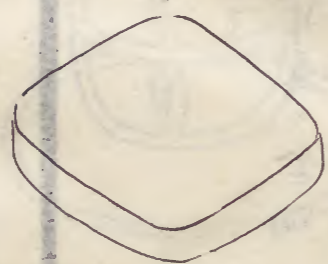


外居の中は黄白の
襦袢入云か

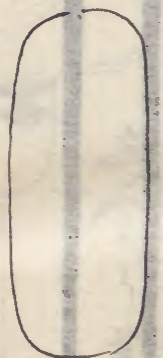
ふきの團子洋あしを
椀に盛り

同時打櫃の中は菓子と

餅 もち



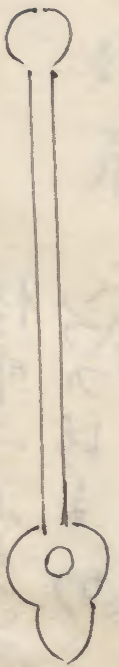
糰餅 もちもち



二色とル小茶彩をねりて
団子のやみりて相舞の
ゆきうがたるおし

後中うまの菓子のおとふたよと
このはまのななりん未考

香匙

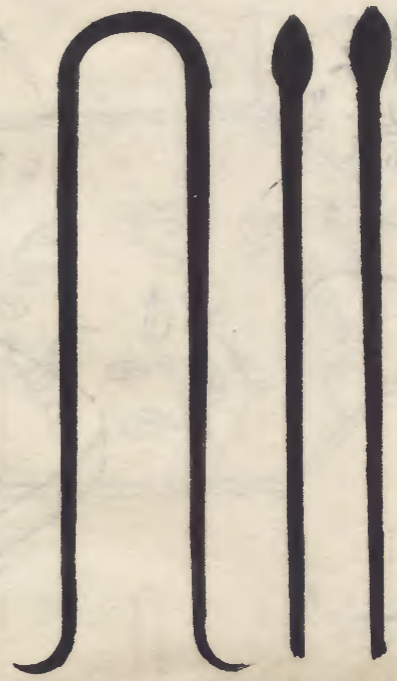


福井小款匠香匙

以押香屑灰
其形

火箸

こぶ



福井小款匠

火箸

扶香置香燭其形

固香泥其形



如此



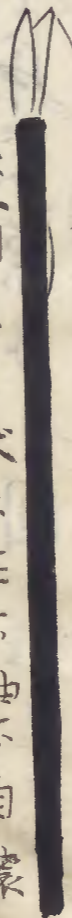
几杖

文交 トモ

烏口金銅

黒漆

以石手取文杖副左手杖末在右袖下自懷中取文持之



建武年中行事 詳出

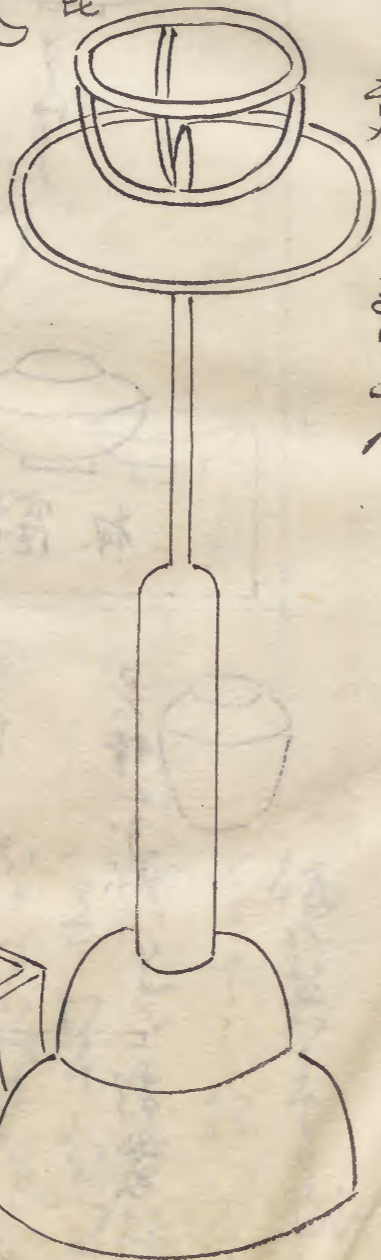
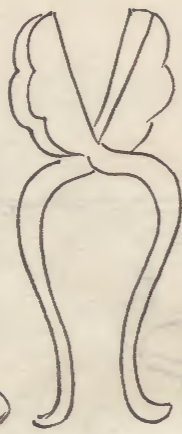
蛇匙

之足

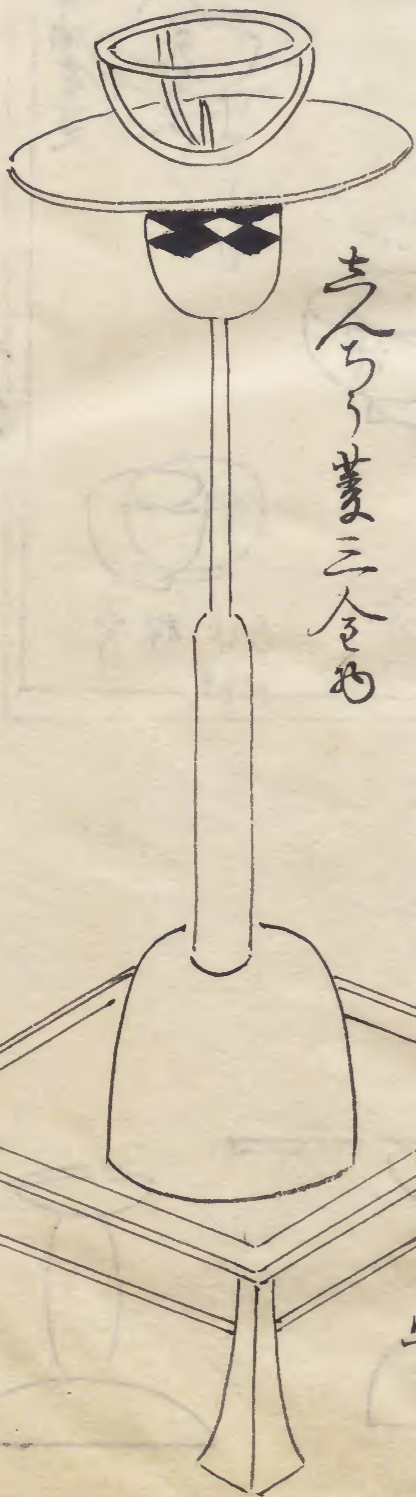
福井小款匠

燭切

福井小款匠
子出建武の差比



福井小款匠



安末

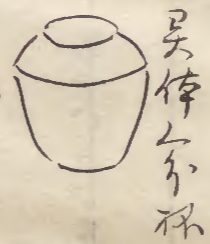
香燭相配

福井小款匠
香燭は上の香と下の香とを並の
形に作る也

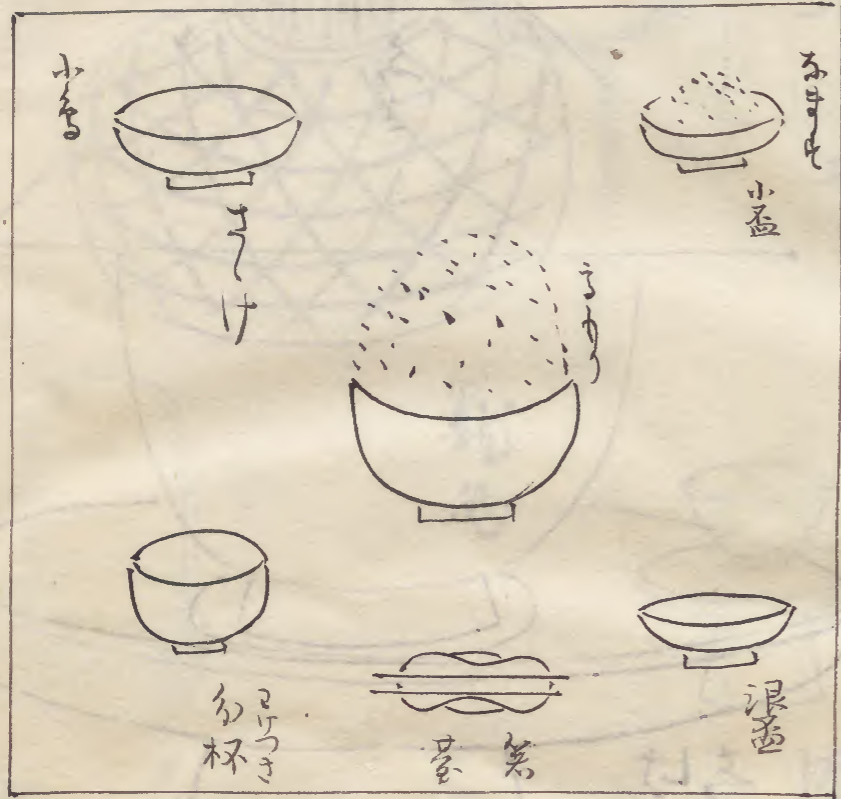
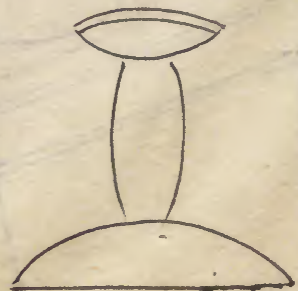
椀名考

打發

三杯



打發

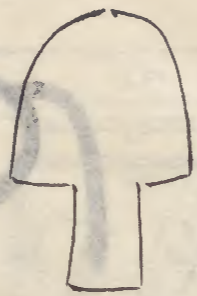


長九寸 箸竹

飯の箸をさししるは
 湯の箸をさししるは
 湯の箸をさししるは
 湯の箸をさししるは
 湯の箸をさししるは
 湯の箸をさししるは



籠物



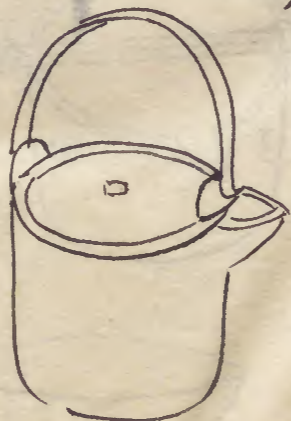
砂子



酒壺



湯子



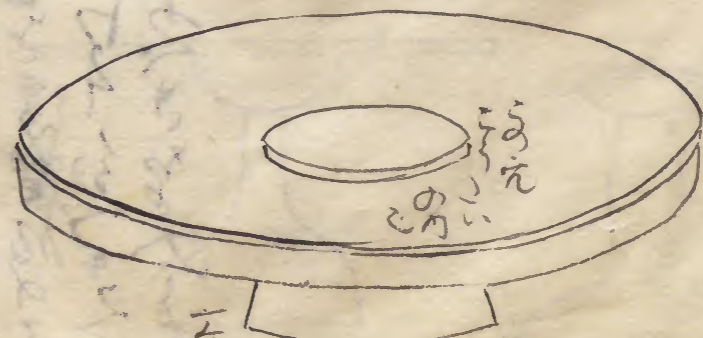
梅付 若老 繪 若老 洞 分 園 曾 老 古 作



蓋 籠 子

大 寸 水 付 園

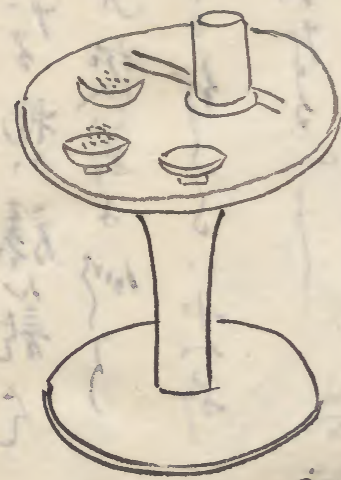
付 壺



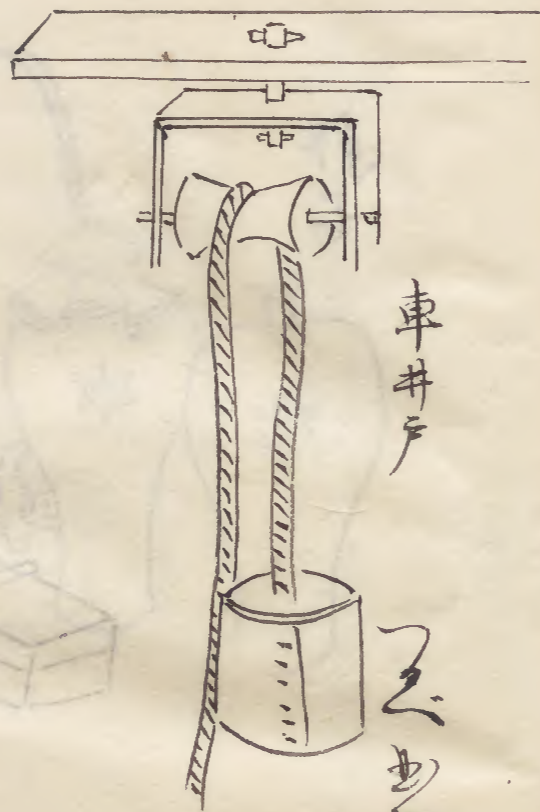
水 付 園

一 文 字 之 物

上の板を...
たる...
...



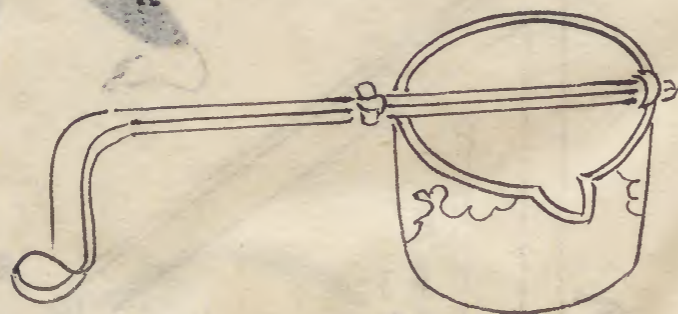
うき出...
...



車井戸

玉曲

板...
...

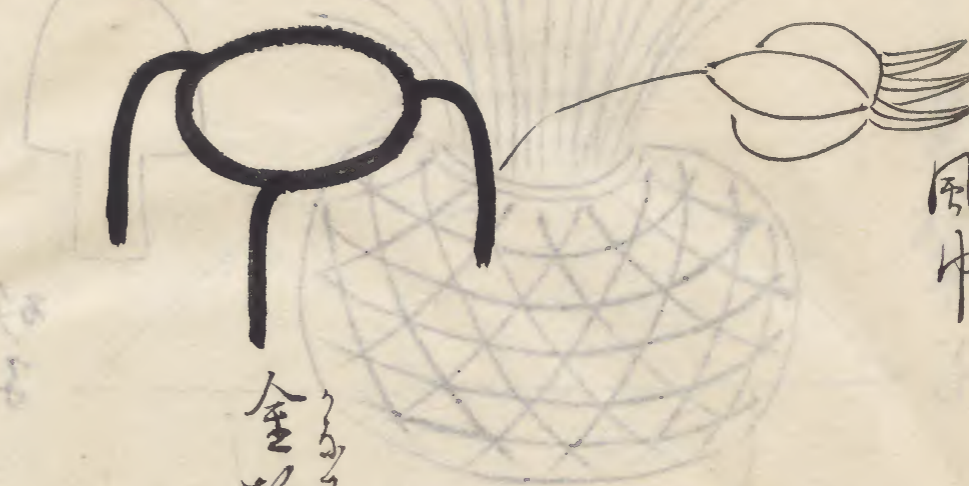


毛柄

縁考し



風巾



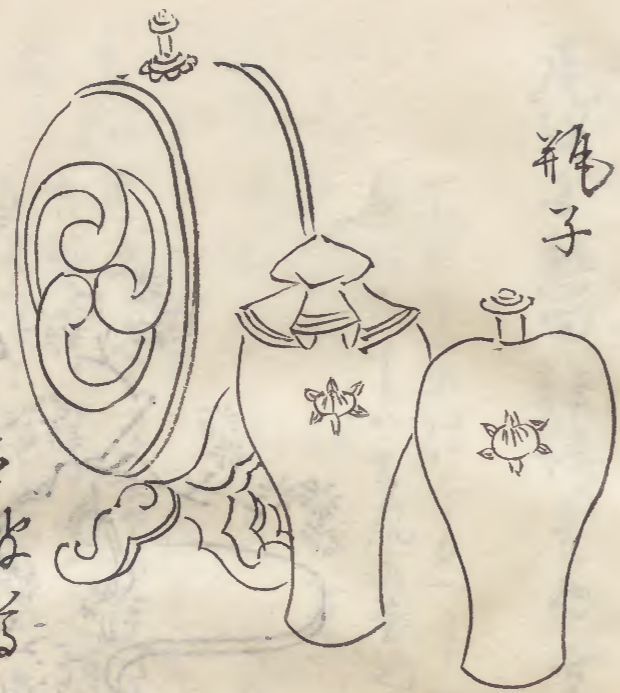
金輪



芥橋



樽

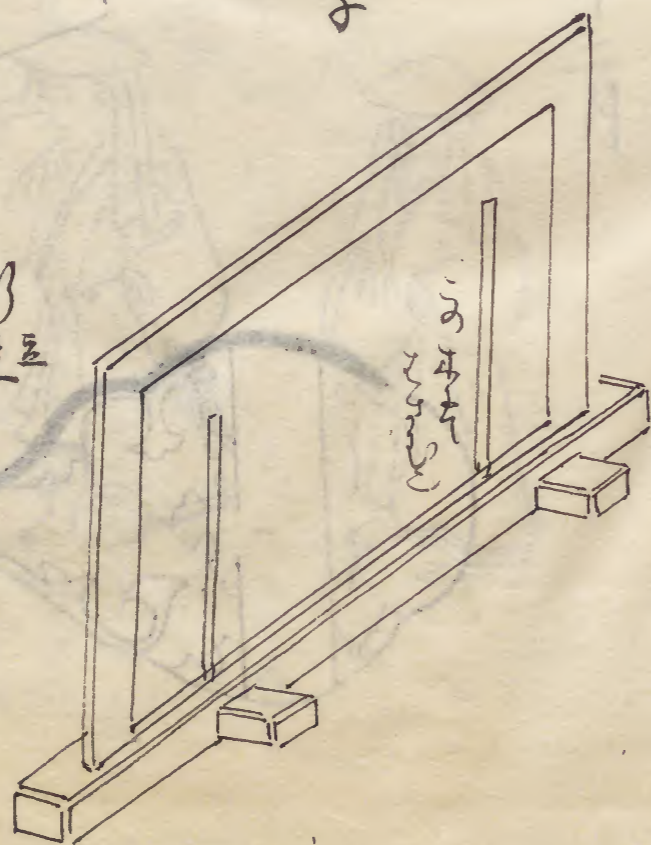


瓶子

右
樽

桃子

御
座



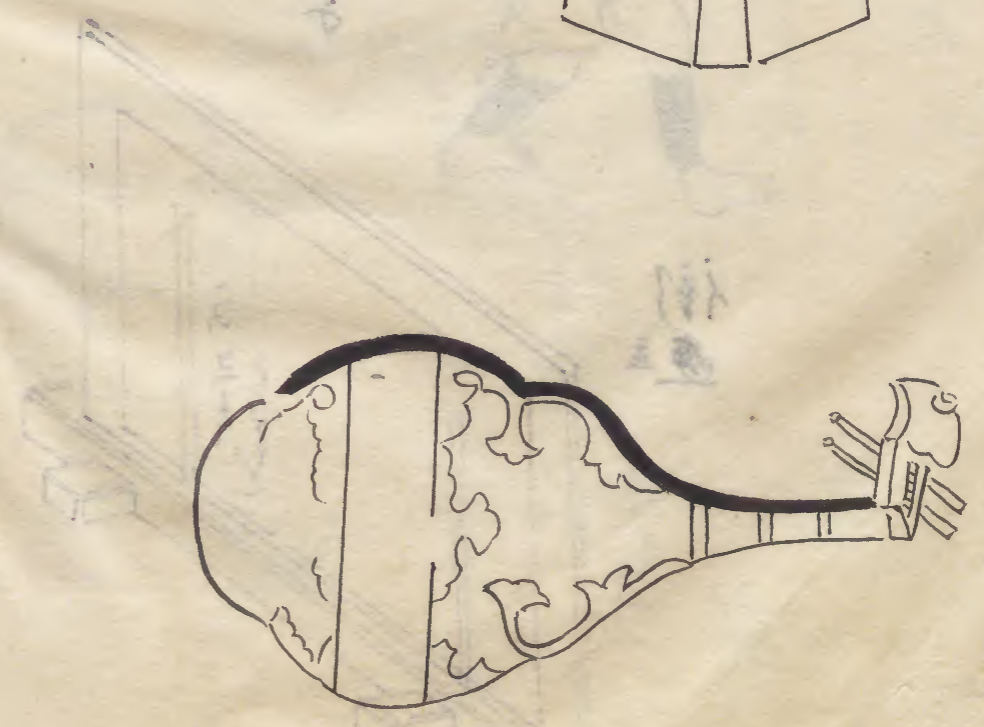
持たす物ハ 藤籠ニ
今ノ 獲ル物ニ 似ル
腰ノ 付ル 小 火 折
袋ナリ



尾張西熱田社繪巻 享祿二年二月
 一向のト女の侍なり一袋
 を持たするちんのを
 そむく之を女やとて下
 女に髪をいけを例つ之侍の侍
 をまらと之をいけをいけ
 一人の侍今あらまき柳のれを
 若たつよまきなるい大井まきの侍
 とてつり希女並に侍のそ
 ねさつため死



尾張西熱田社繪巻 享祿二年二月



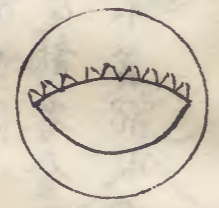
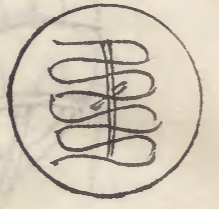
○秋毎間候ニ享祿二年といふ今より元禄二年の御方の御事
 あり。此の女のしるしはこれたぐひに尾州熱田社再興繪圖
 中の社官の妻のしるしは奥書に享祿二年己午二月吉日生圖
 越前藩系郡任大納言源海五等者如前和泉社守賢信
 と云ふその信は享祿の女の侍行のしるしは今より元禄二年の御事
 中の一段にきよめのみ笠と云ふ一髪は下髪より元禄二年の御事
 振りて細帯と云ふ一帯は神のしるしは今より元禄二年の御事
 と云ふしるしは今より元禄二年の御事と云ふしるしは今より元禄二年の御事
 のはまのぬと云ふ一細帯ありて結び髪は同じくしるしは今より元禄二年の御事
 の男の着る菅笠と云ふ一笠は下髪より元禄二年の御事と云ふしるしは今より元禄二年の御事
 のしるしは今より元禄二年の御事と云ふしるしは今より元禄二年の御事



一 糰餅 マカリ

二 饅頭 ブト

神祇名内類 袈裟抄本



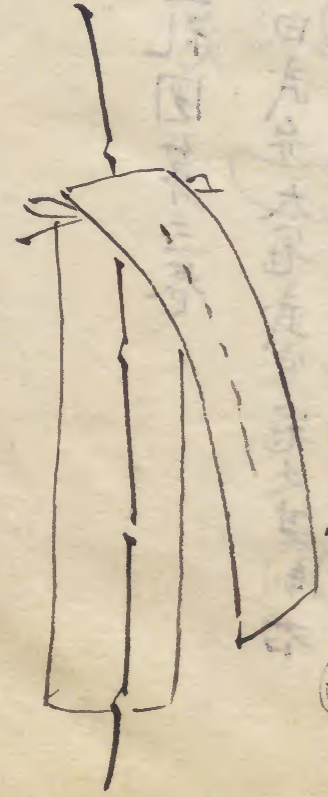
羊ノ衫 ニテシタム

竹

桃



巻敷



折禱所はし 履れ
目録よつてしるし
は

ふくむとふり

〇 貂尾冠

此子左右の貂尾は、
 緞布の象也侍中中常侍加黄金璫所蟬为文貂
 尾为飾胡廣曰越武靈王效胡服以金璫飾首前
 軟貂尾为貴職秦滅趙以其冠賜近臣以金蟬貂
 尾飾者金取堅剛百鍊而不耗蟬取居高飲露而
 不食貂取内聆悍而外温潤毛采紫蔚而不彭灼

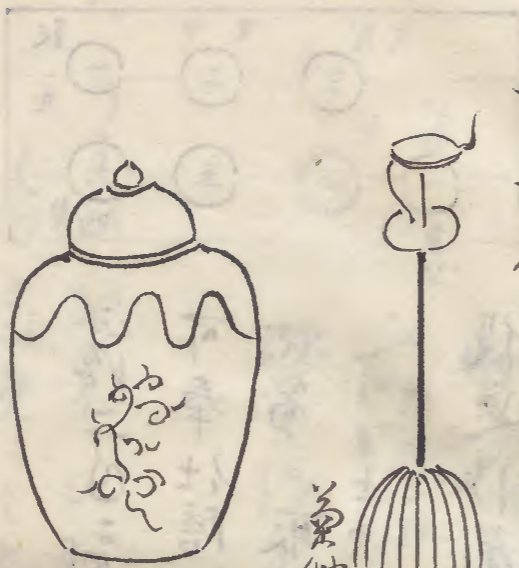


三礼圖第三卷

武冠後漢志云一日武弁大冠武官冠之其制石
 緞布之象也侍中中常侍加黄金璫所蟬为文貂
 尾为飾胡廣曰越武靈王效胡服以金璫飾首前
 軟貂尾为貴職秦滅趙以其冠賜近臣以金蟬貂
 尾飾者金取堅剛百鍊而不耗蟬取居高飲露而
 不食貂取内聆悍而外温潤毛采紫蔚而不彭灼

古画伊勢物語

杉下寺介お花大色紙

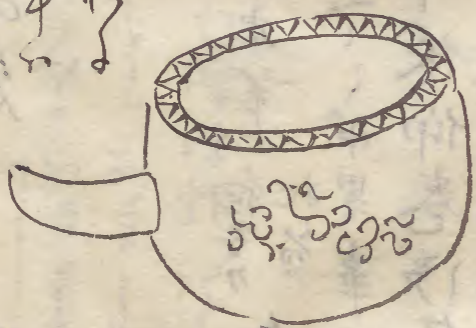


お花大色紙

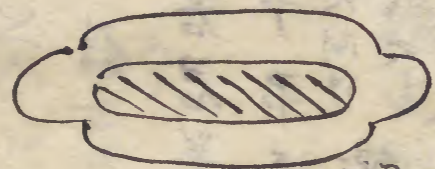
ひさげ



松

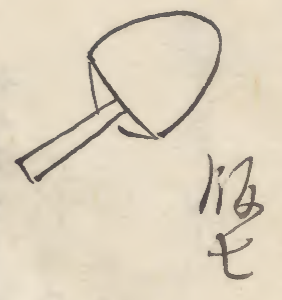


松

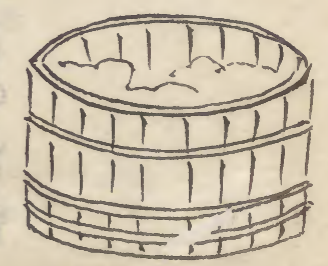


スナ
 び
 び

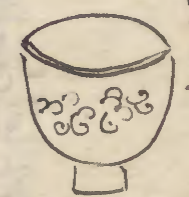
この上にあるあの女は、
 大和物語の女は、
 大和物語の女は、



海七

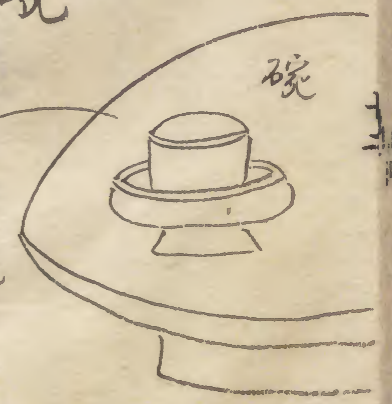


飯笥



挿入

碗

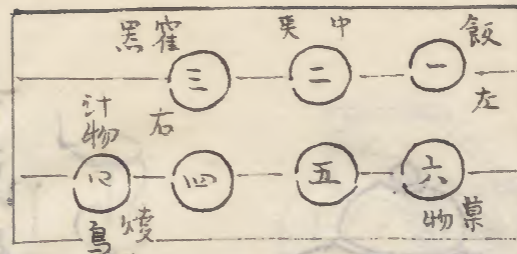


碗

膳

この碗をのたる

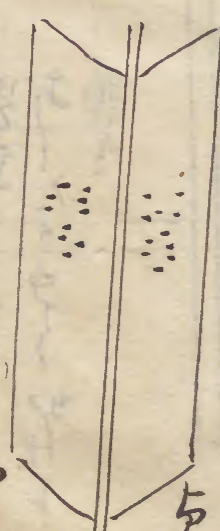
○明日記陪膳次第



正路二の三月廿五日酉時許未常
可奉仕陪勝由長兼得之
把笏 取歩敷 折板 進寄依仰卷沙簾
役送沙茶物初沙臺居沙前左次四種箸臺之沙基
並天居中央次亦注器之沙臺並居右次沙臺
臺外又居中央外次某物沙臺居初臺之外次持參沙

飯 有益盤如 取飯居最初沙基
物 鯛焼物鳥 是加二種 取之居四種沙臺盤返賜役送又次
改重沙簾 按笏退立可

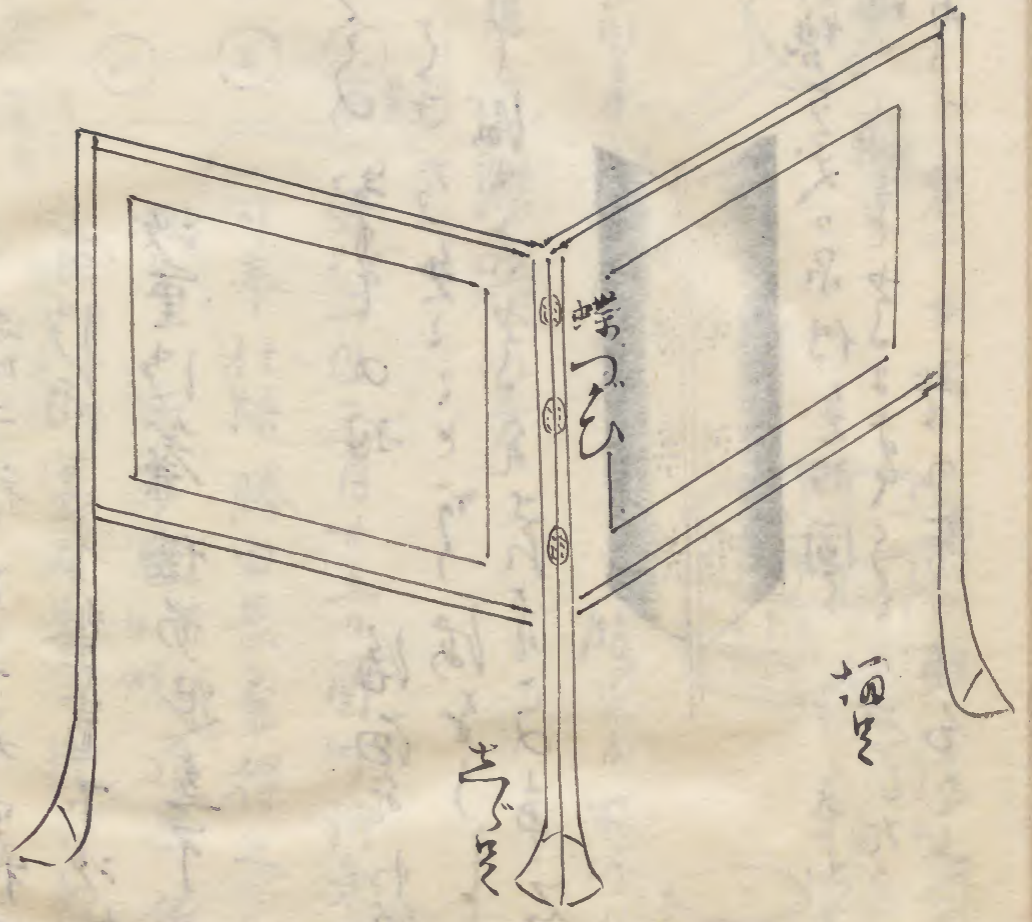
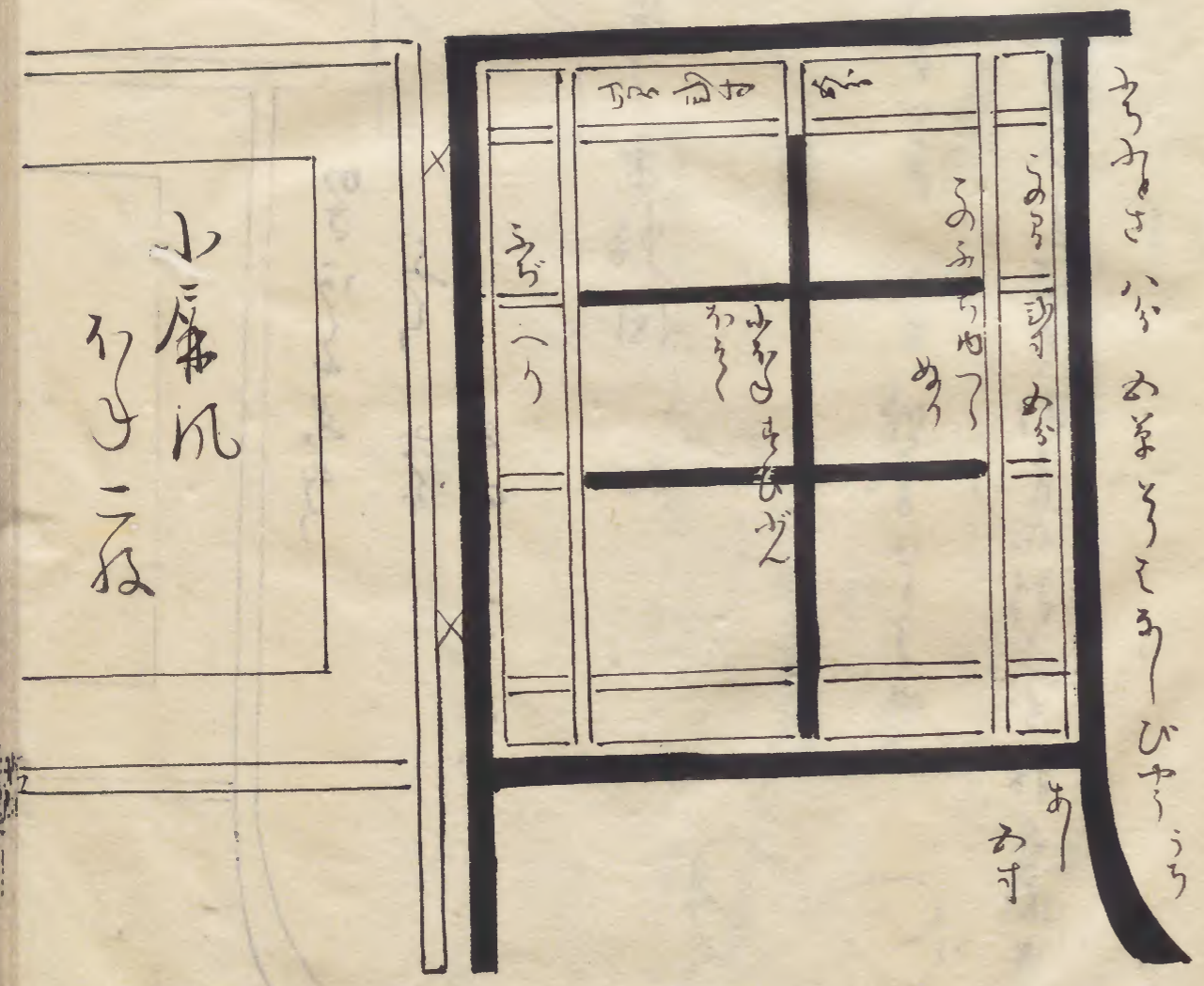
○うしろのありの羽
こしたる矢ことり海をうらまはす
て海ちとるを



小アマト
イワコ

仔細より大の羽付を羽同といふのありといふは
海人海をうらまはすといふ大之たまりの海人
ありて雲の女舞の舞の海をこ大アマホアマ人の

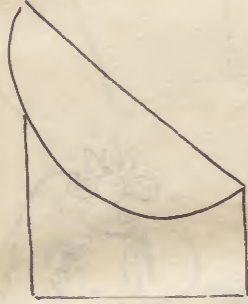
幅二尺五寸
 幅三尺五寸



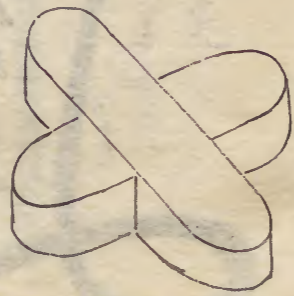
幅
 屏風

あしあし
 あしあし
 あしあし

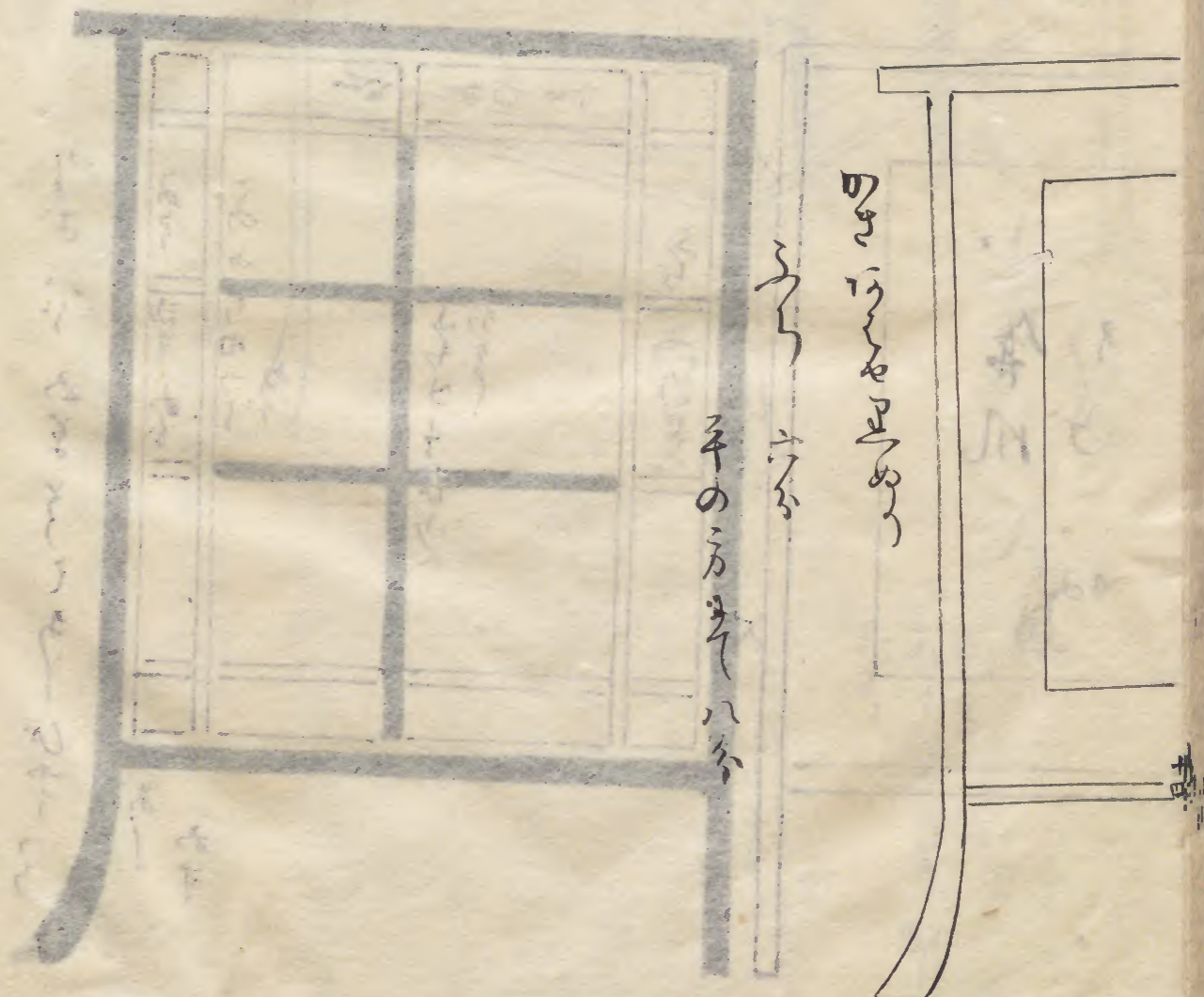
一箇付 如本尺目と 示神図



此は なる 尺目と 示神図



一 木果之 存子 或ヤ人とも さまは 方の 伝と 神 五原 あり



此の 方 尺目と 示神図

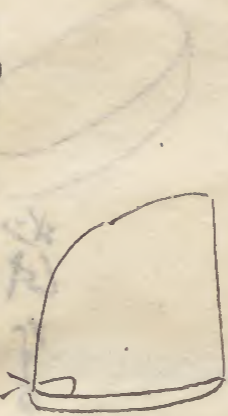
平の 方 尺目と 示神図

一今世女房額の図



一門之為帽子

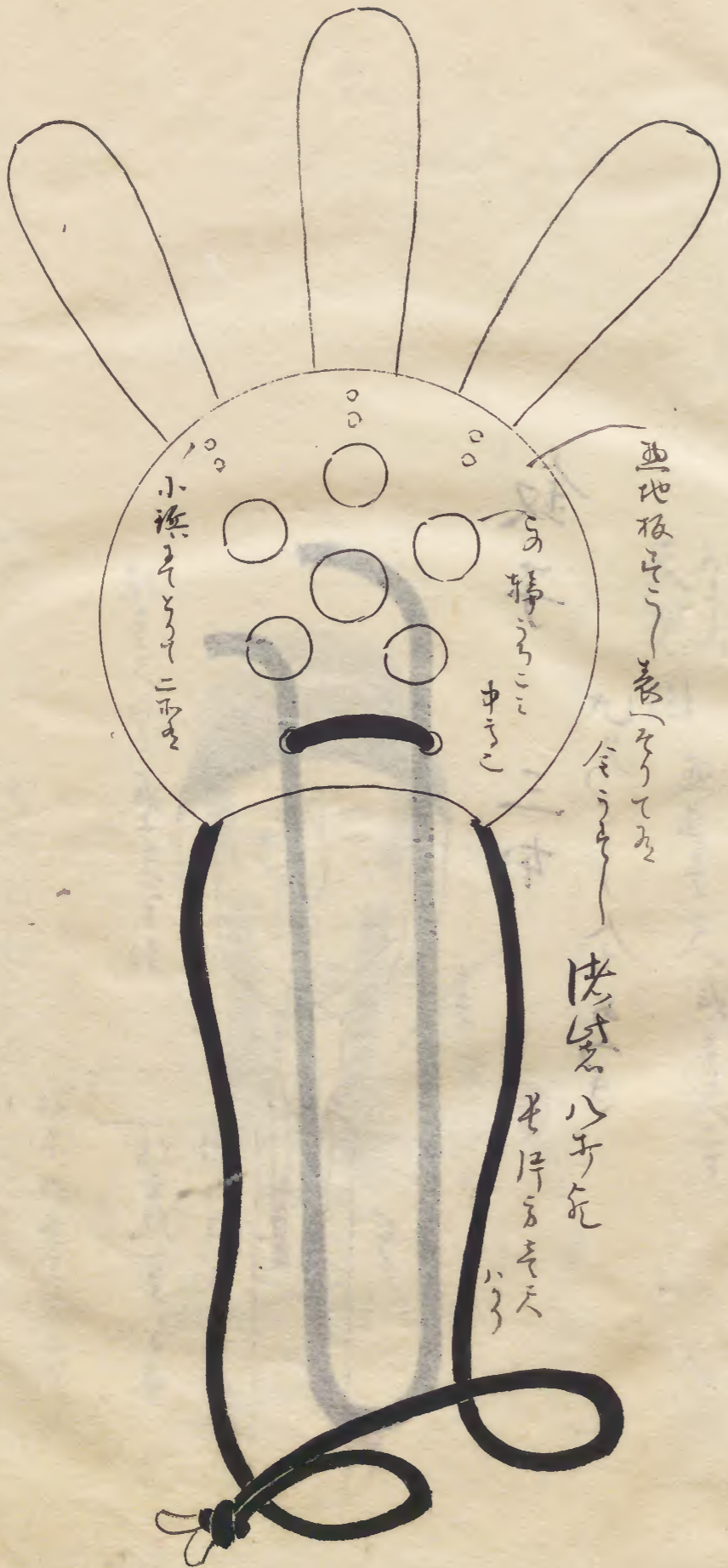
中下より門之為、後所共角を名
仔細より花ら丈あり、圖を



平礼為帽子

古存あり、もと長き、あをさき、後を折り、や
通はれ、あをさき、折りと、あをさき

さいー 大きき、はらう、合めりき



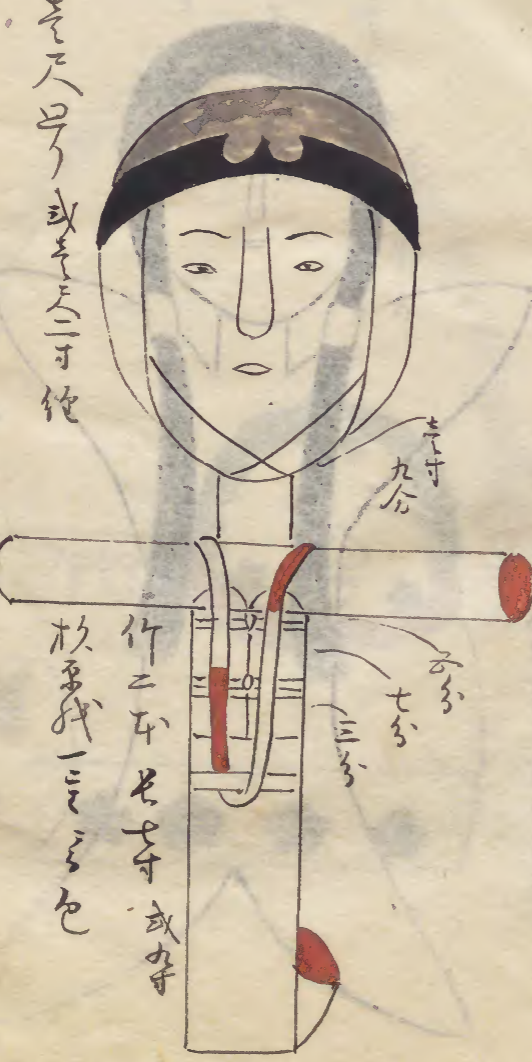
地板、さき、あをさき、あをさき

合めりき、決、合、ハ、折、合

その、片、を、さ、き、あ

小、換、を、さ、き、あ、二、折、合

宝曆十甲子甲申二月廿二日
序宮の、後、所、定、院、所、文、法、装、束
等、於、河、川、宮、忌、社、何、あ、り



顔は尺二寸五分 或は尺二寸他

あまがら
天兜 顔は尺二寸 或は尺二寸

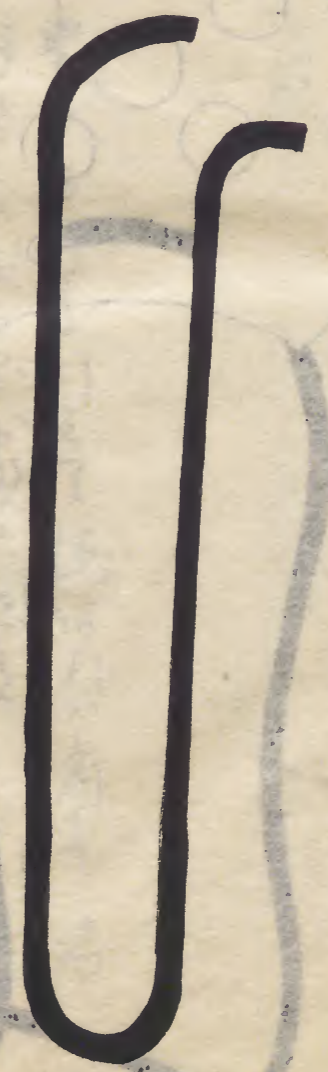
檜木 顔は尺二寸

竹二寸五分 或は
松五寸五分

五分
七分
三分

釵子 三本

いづらう 金めりき





大名

二寸七寸
長き人守
幅八寸許

おき岩生
よい

這子図



髪は通きとけし
金平之様
未だ

西身飾給ふ包
長き人守
或き人守

筒中儀符



深の儀四寸長を八寸
房守儀の上叶儀

至徳儀守

至徳儀守

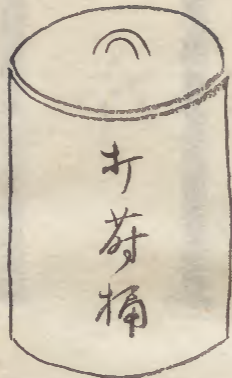
胞衣桶



高三寸五分
径七寸五分
至徳儀守

是亦白粉を漆桶に作を
或は浪節の上へ桐粉をり画を

押桶ニツ



径八寸
高八寸

白粉を漆桶に作の画を

押桶十三箇を
錢吸といセツ
ニツル
一層の
振動桶
一名ハ
お前桶
と云

襦の衣のきま子のきる
 尾の毛のきる物とらぬのうら



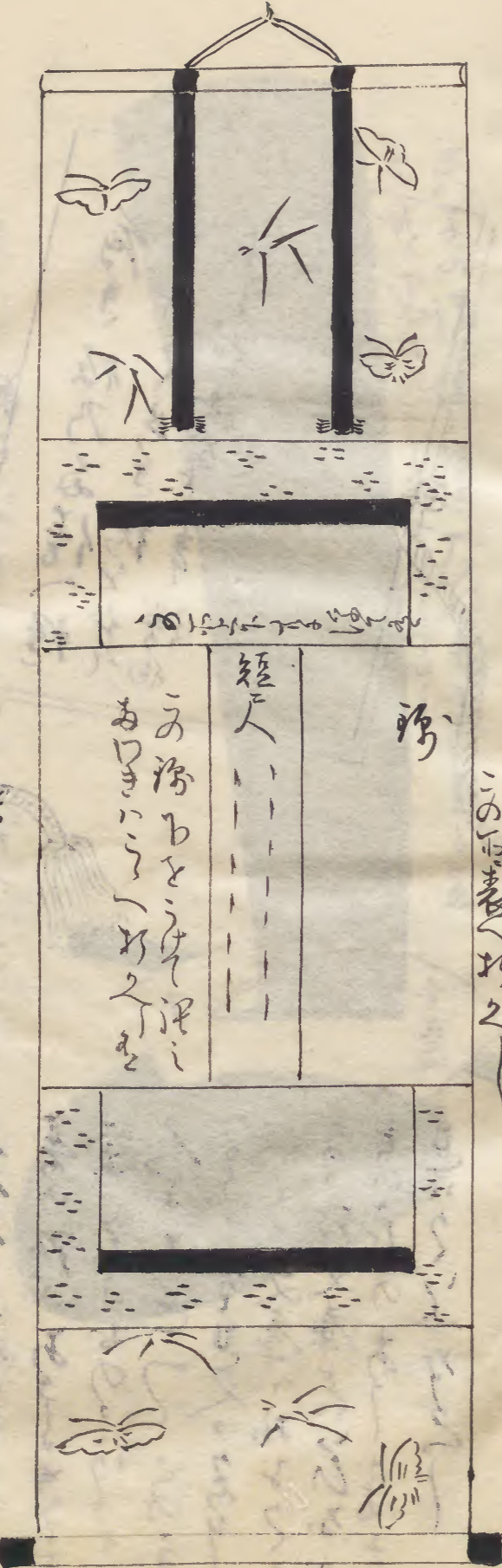
男の腰に付
 るの靴の紐かこ
 ぶららるる
 めりん

常憲地極相
 任者内記
 繪畫
 三きこ

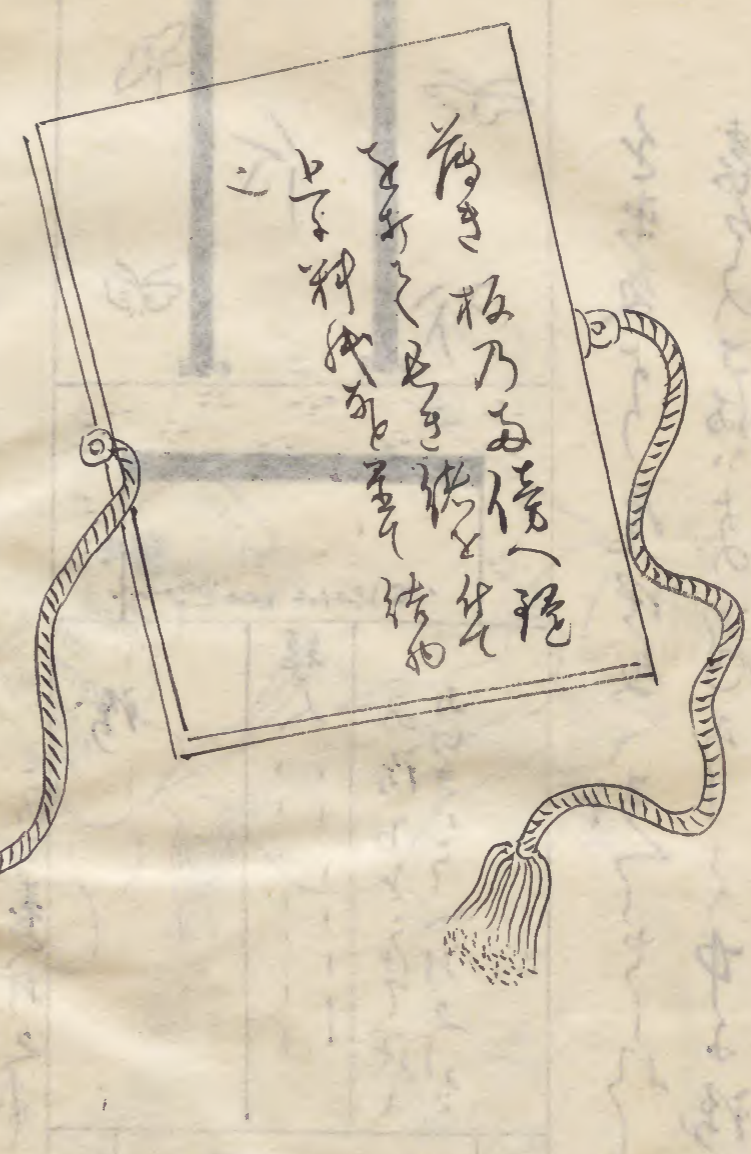
一人ごくり

短尺魚

この尺書入り

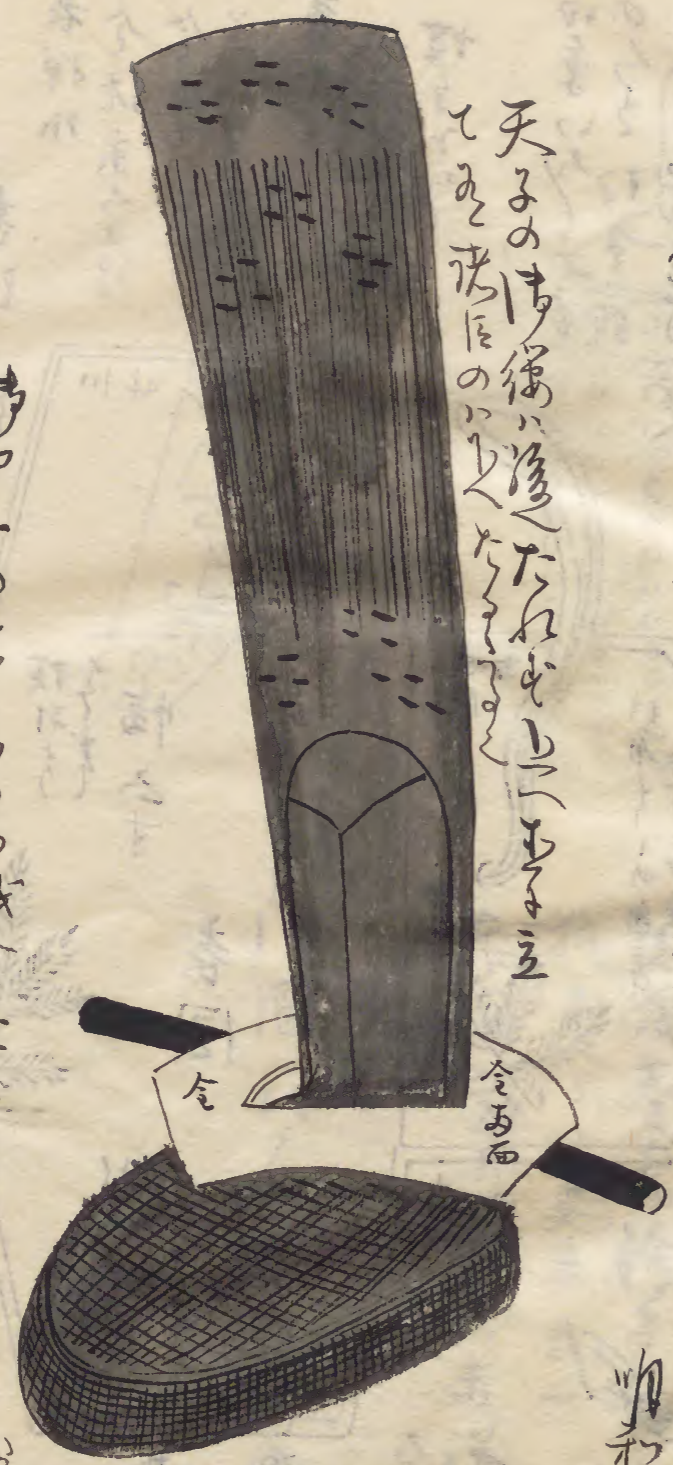


を束夜より
 妻々のうは
 短尺を
 神福



大付家持の御
 其の所ふありしこと
 まことにふおのりし
 人よきことつら
 ありし文庫の御
 ありし文章の御
 ありし文章の御

中子冠 金中子冠圖



天子の御儀は後たねどし一むま
 しては後臣のいりしむま

伊勢山田

明和三年の御

中子の上よりめ紙金た
 その如し御冠のそ
 中子冠を臺
 中子冠を臺
 中子冠を臺

福袋入

杉色 旧年五用

表七二寸

表掛け

全紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

表紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

旧年五用の意

のんき 杉色紙

のんき 杉色紙

のんき 杉色紙

のんき 杉色紙



表のしきおろしめとれ之へうとらまう

幅六寸

表紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

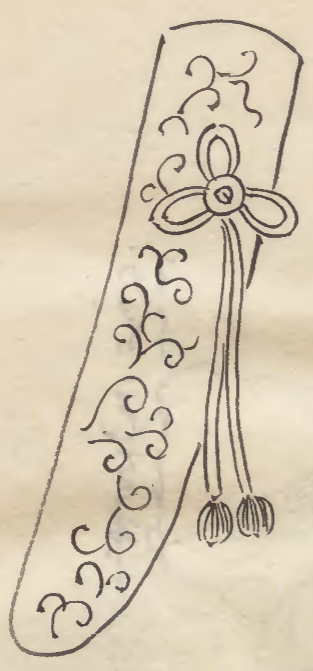
全紙赤くま川

表紙赤くま川

全紙赤くま川

表紙赤くま川

全紙赤くま川



左那岐

左那岐 袋は菱を縁を包むに後隙を和物に今扱は菱式不之左字交縁平圓云が形状未詳

同圓同人不持袋袋

花揚



かた枝

阿彌陀法師



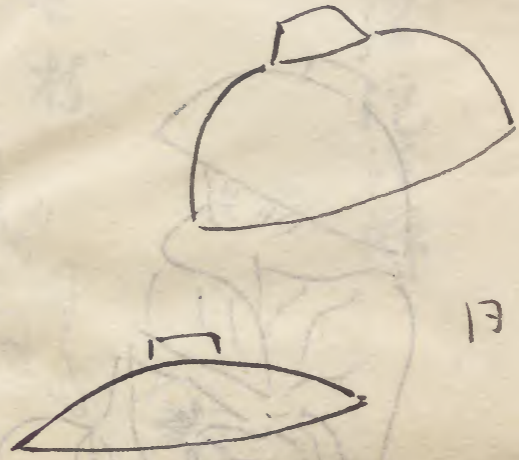


故免分物

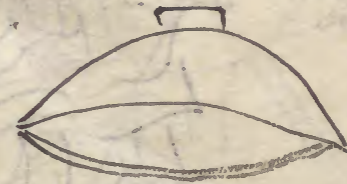
かきあきをり 給をり

笠

笑哉糸 給をり
花掃法師の笠



日



日向花掃女の笠

好光
好光の
好光の
好光の
好光の

好光
好光の
好光の
好光の
好光の

好光
好光の
好光の
好光の
好光の

好光
好光の
好光の
好光の
好光の

好光
好光の
好光の
好光の
好光の





内閣
 庫

飾持云切符
 出有物名大
 障
 障
 障

行幸繪巻也





洞子魚

此能衣と成礼あり云傳

衣袋



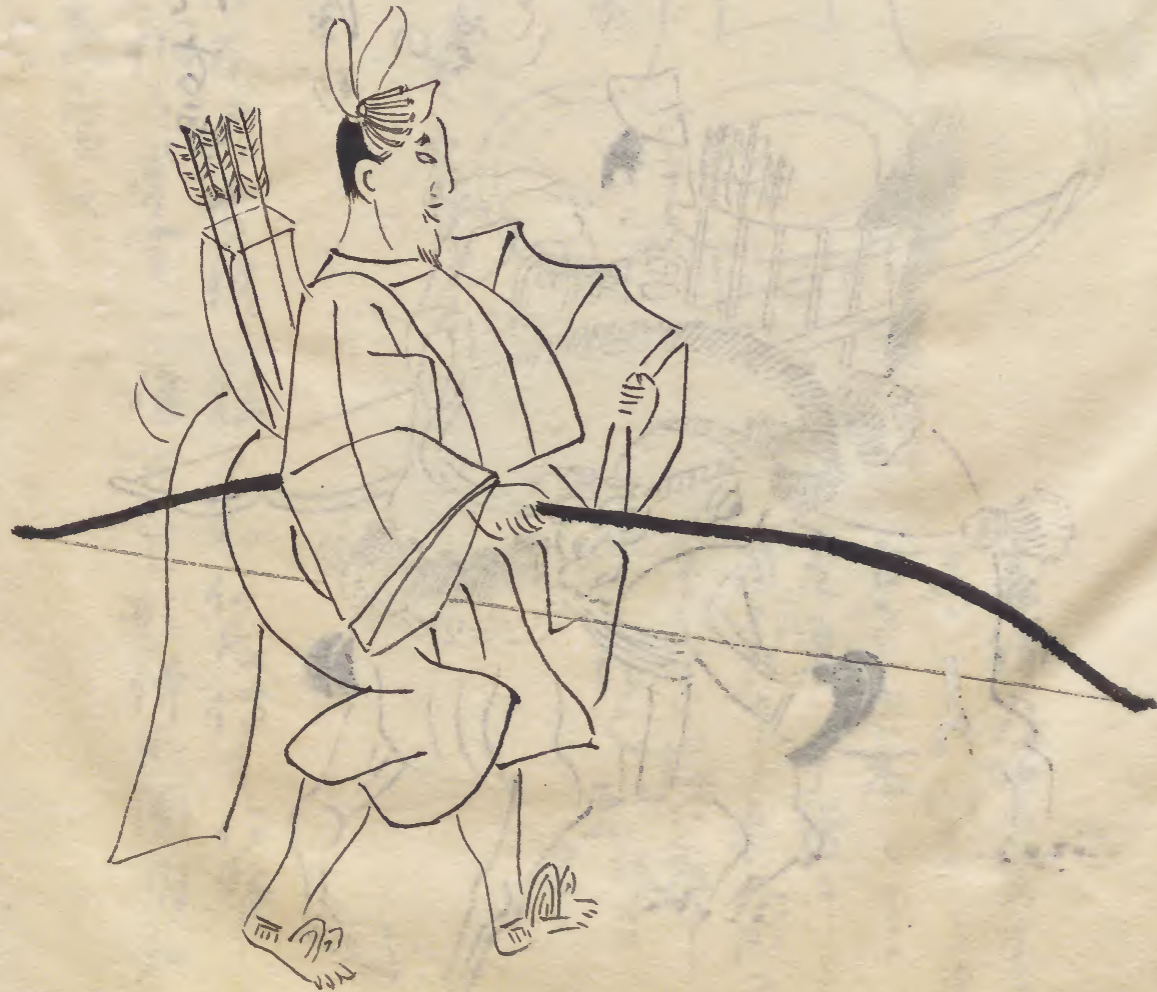
市鼓

尾袋

鞆

此能衣と成礼あり云傳

洞度魚



洞度魚
浮袋



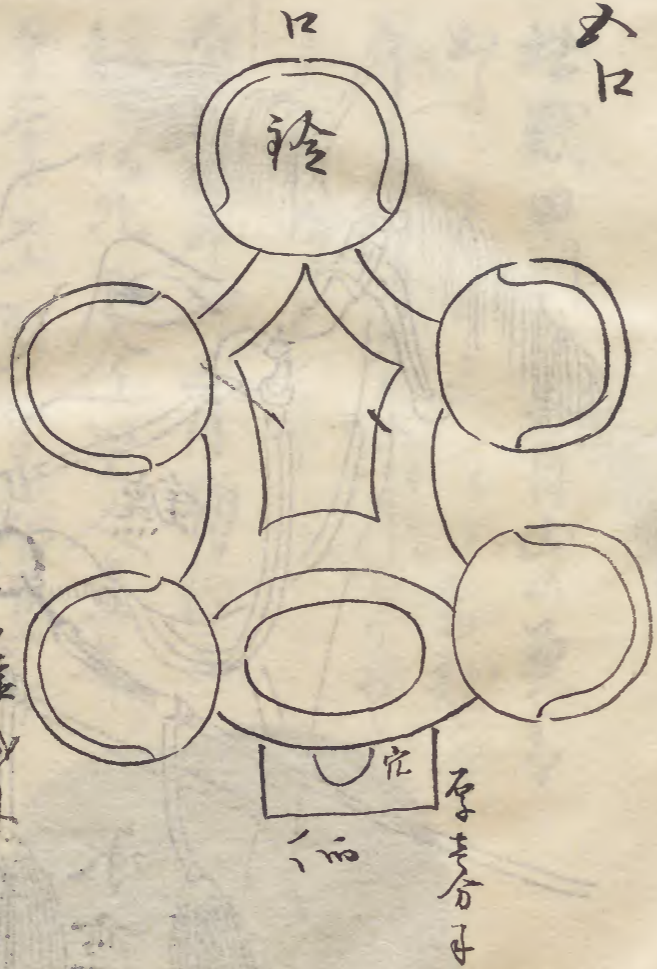
保元物語古画

盛衰記は筒井の浄妙
 七つらりたるまの
 志の准子ゆりたるま
 強みたるま死とて
 いふはらの死ありおや
 一し未詳



鈴

大口



表縁及中筋の不成
 黒古の如く肉をさす中の
 白き布の巻くべき孔
 其表に平履をさす
 肉をさす表の肉を
 中へく綴るべき
 背の形をさす
 中の形

中絶玉の如く村を照らす
 不為古鈴一枚不知何物
 鈴と古の中鈴とて一也
 年乙亥十月十八日
 御官云

唐



坊敷甲州の天目山の奥より
出づるときそとくうまの雷敷あり
よー野州の人命そりや
よ敷ありとく

明和八年卯三月朔日
經ヶ橋北町今里人常道
寺をより所和泉石音の
よー鼓細の籠まのりよ
わら張えまよ土籠の蠢々や
猪々胸を膝の神籠
のよー額返色白鼻の
よー野猪よ





菜萸囊

花萸

糸草葉白糸紅葉

以上七節

甚服光利一曰際黒く有る一曰腰纏く
 顔の長サ既上と鼻は是より一寸五分は尾尾寸
 前後と毎一足の間一寸五分の係然の如く考へ
 黒く深き好む所あり 齒を細く一分前後鼻は
 一寸五分は深き一寸五分少余尾の長サ七寸五分
 歯牙の色は白黒氣掛を斑は之より一厘毛の如し
 色の長サ一寸五分あり 唇の毛を何一曰は凡諸の如
 斜 蛇蟻蟻蛛を合りしとすれを好む
 節より一寸五分あり

此和泉尾を合りしとすれより一寸五分あり

卯之月朔

名蓮社主人

杜多実河

考古圖

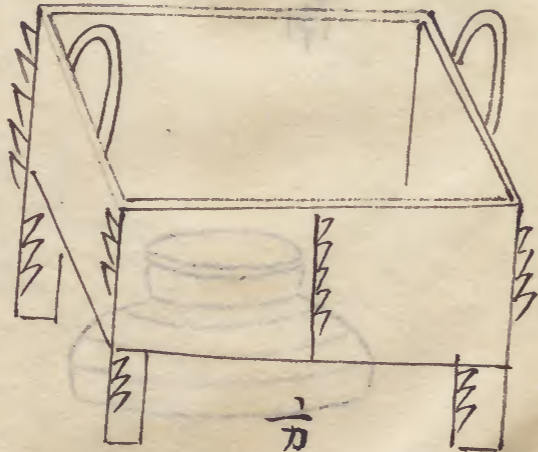
明初都丁雲啓



高



鼎



方鼎



李氏錄云原雅款足曰高此黑自腹所容道足間若股膊然三體合為一

高而有闕是為款者皆圓而不升三體于此少異



高

口

合



武人石卷藥玉圖式



鋪



簠

方角

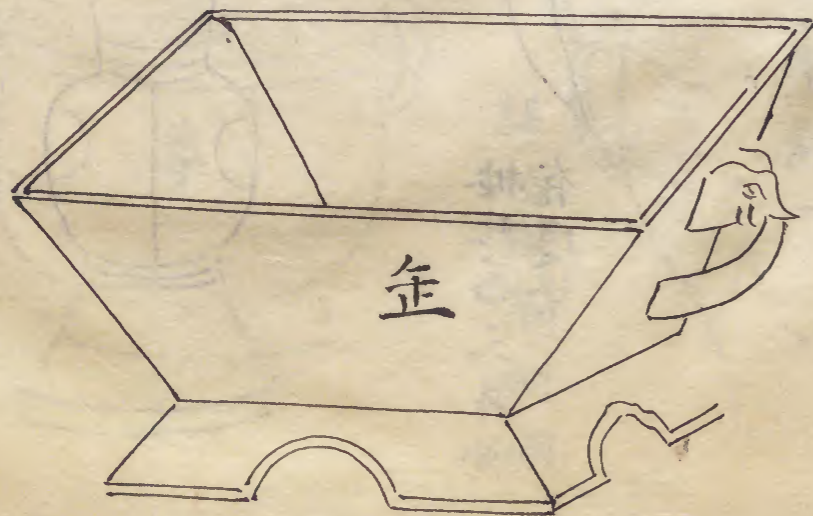


日瓦鬲



柄

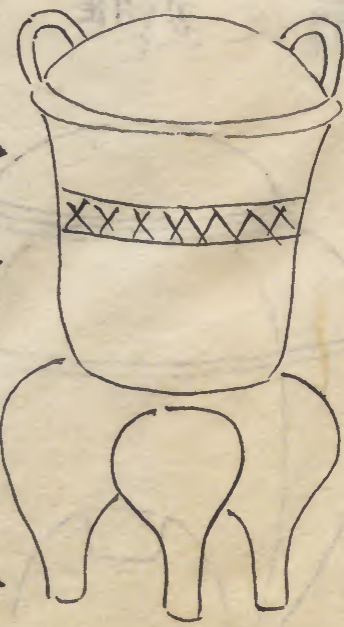
罍



缶

匱

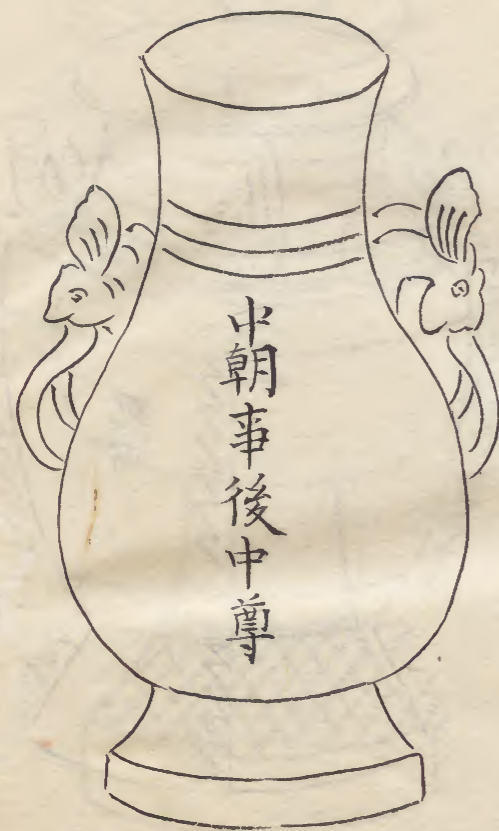
音缶



鬲

周禮陶人為鬲

說文云無底鬲也



中朝事後中尊



白



同上



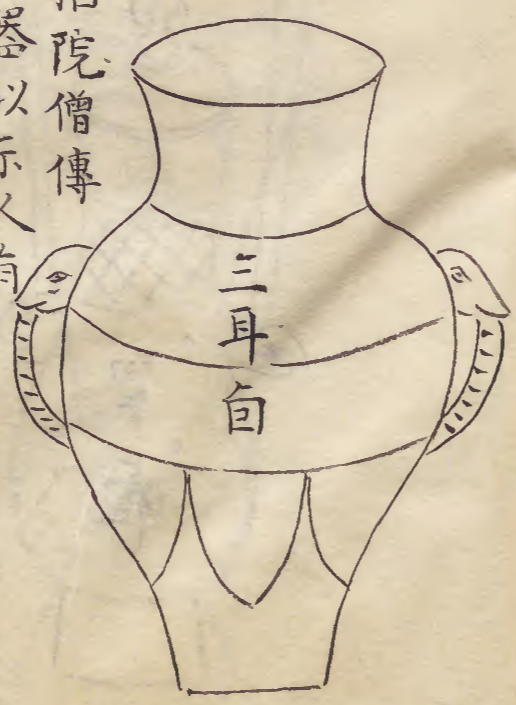
白

或元梁

今法相院僧傳
摹其器以示人有
酒壺



尊



三耳白

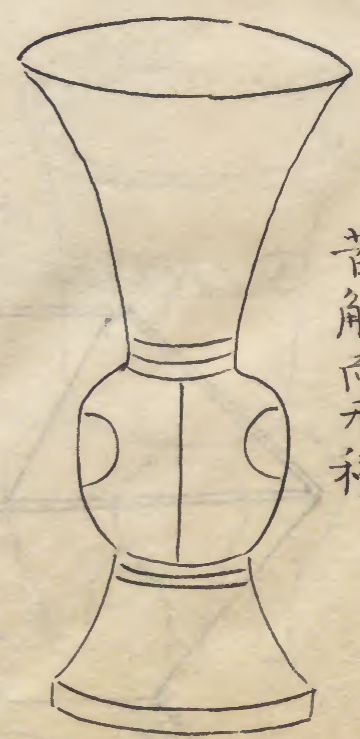
誤指為陶闕明



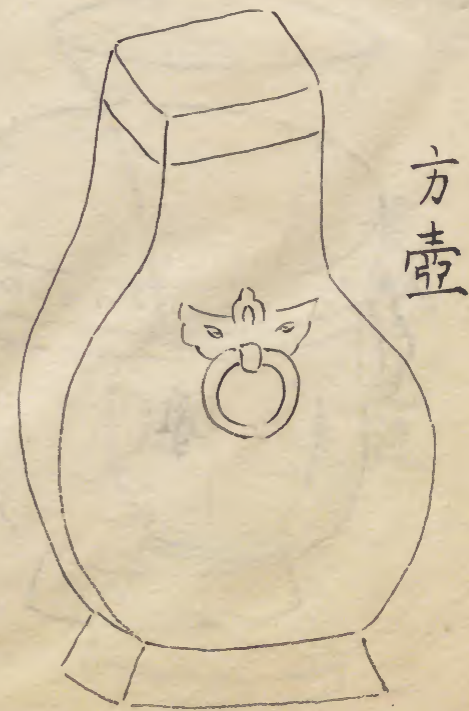
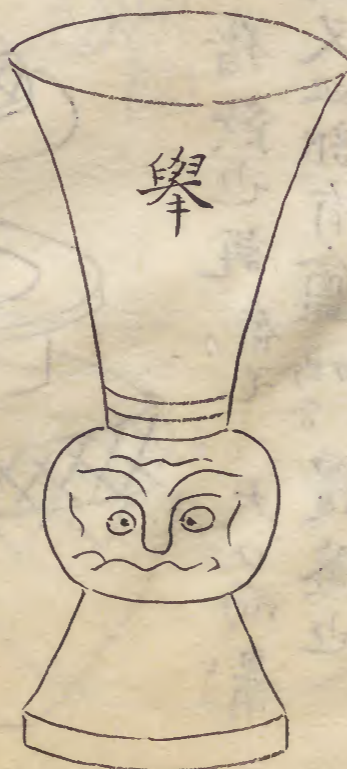
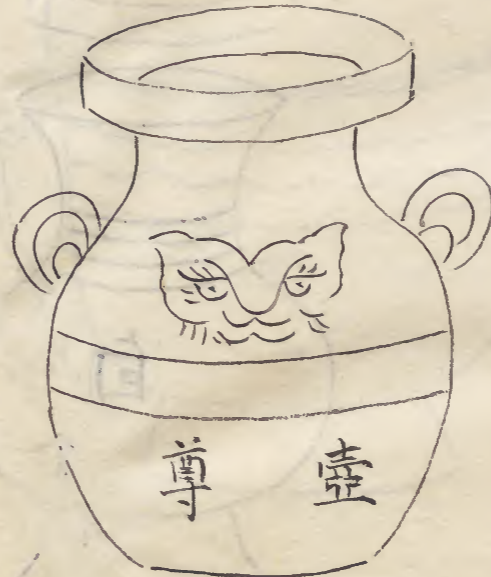
白

尔雅白中尊也

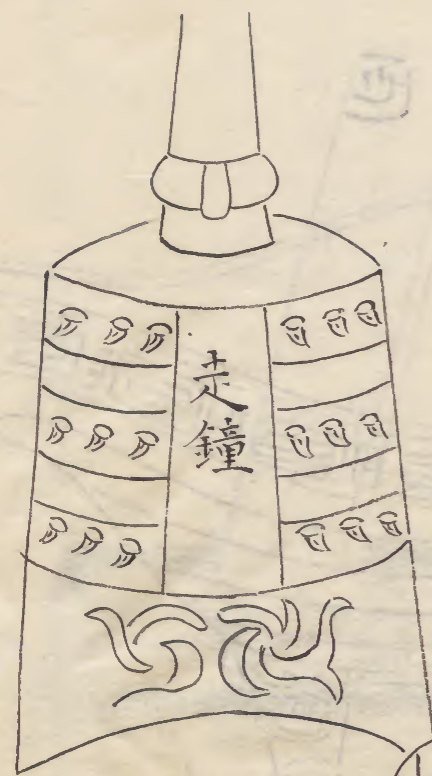
按此器三耳必有提梁



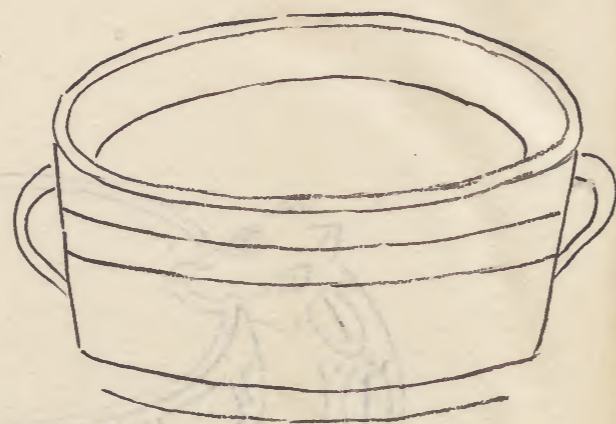
昔觚而元稜



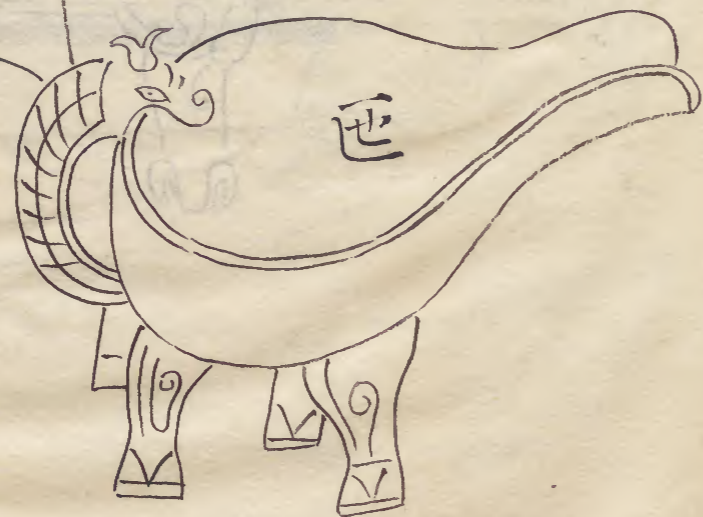
豆



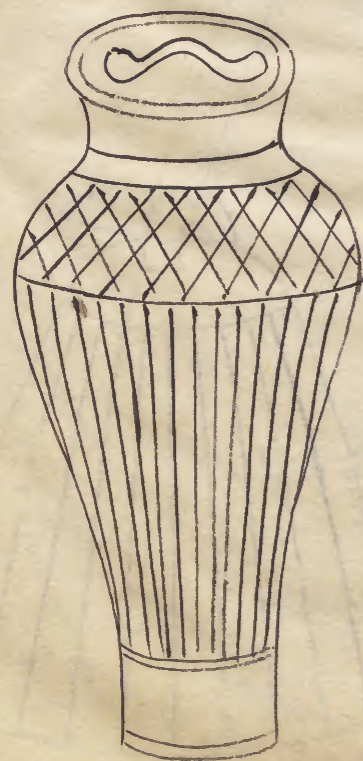
鐘



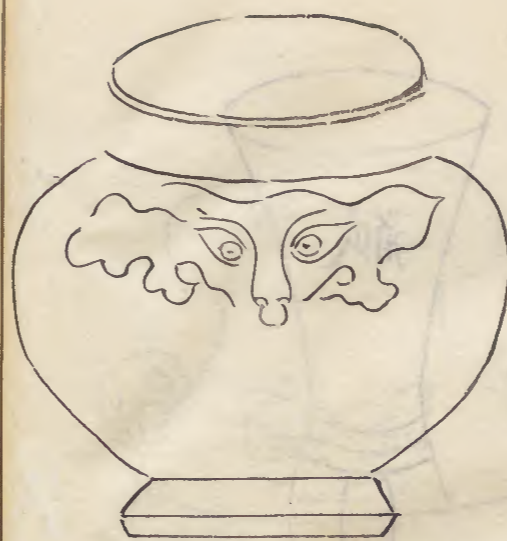
盤



匱



缶



甗



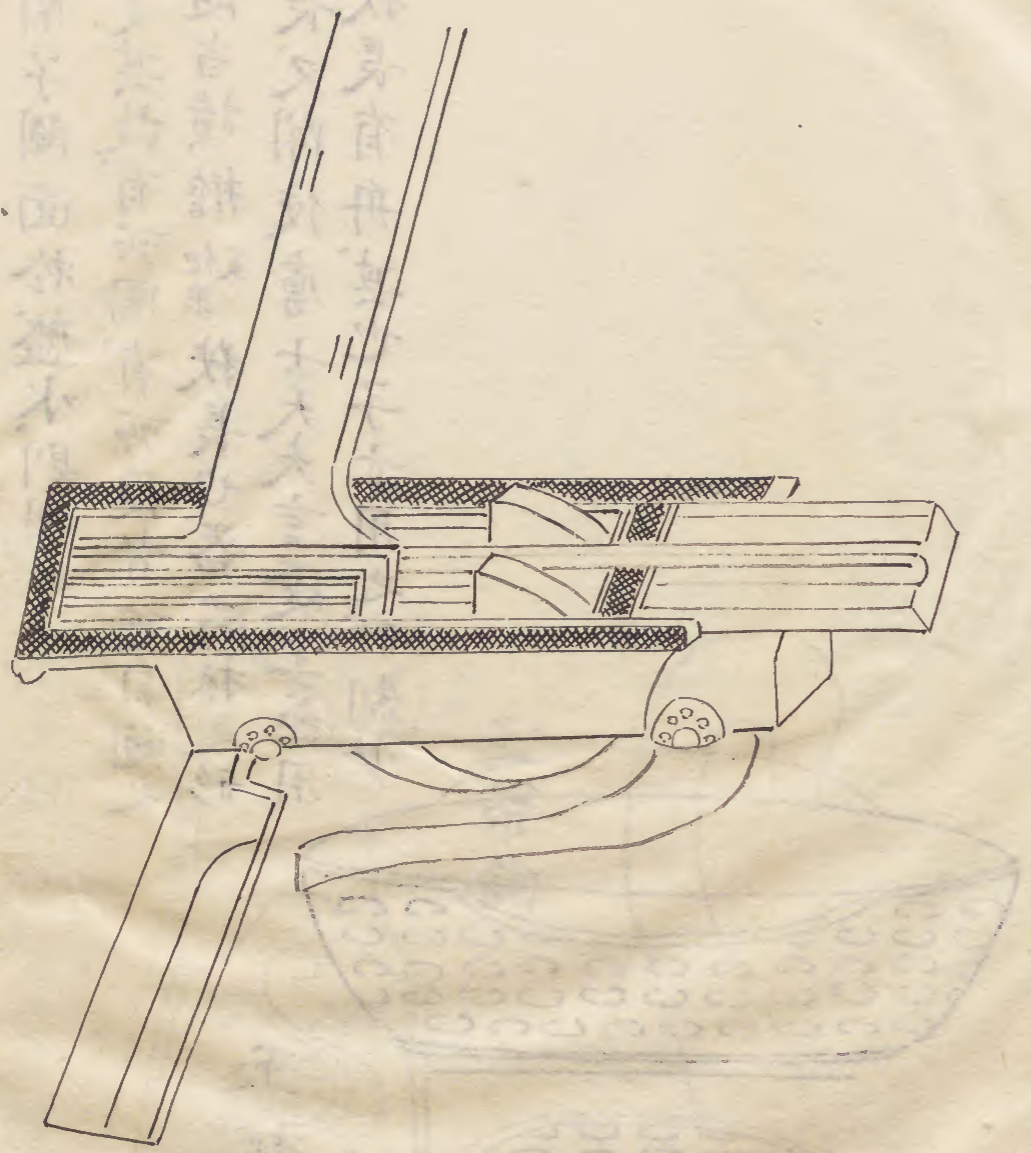
穀盥



饋盥

饋猪飲也甗甗也
大口而甗
食又皿部有盥
切鳥合
覆盥也

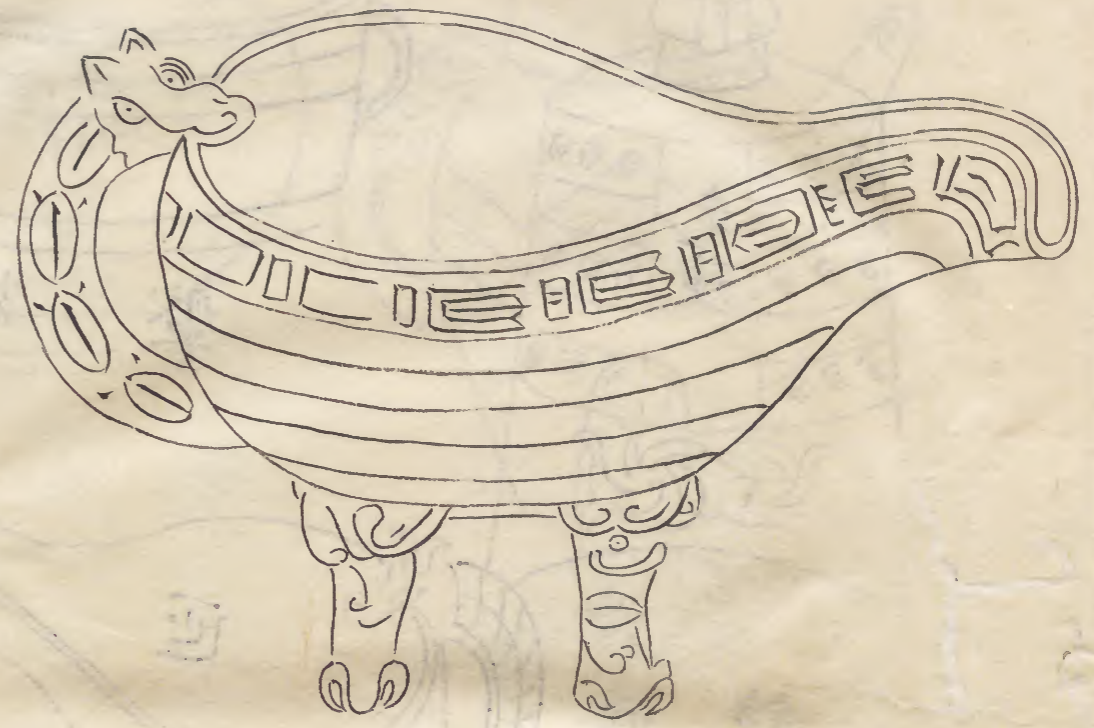
此器身自丹...
 其出則言...
 以對...
 去...



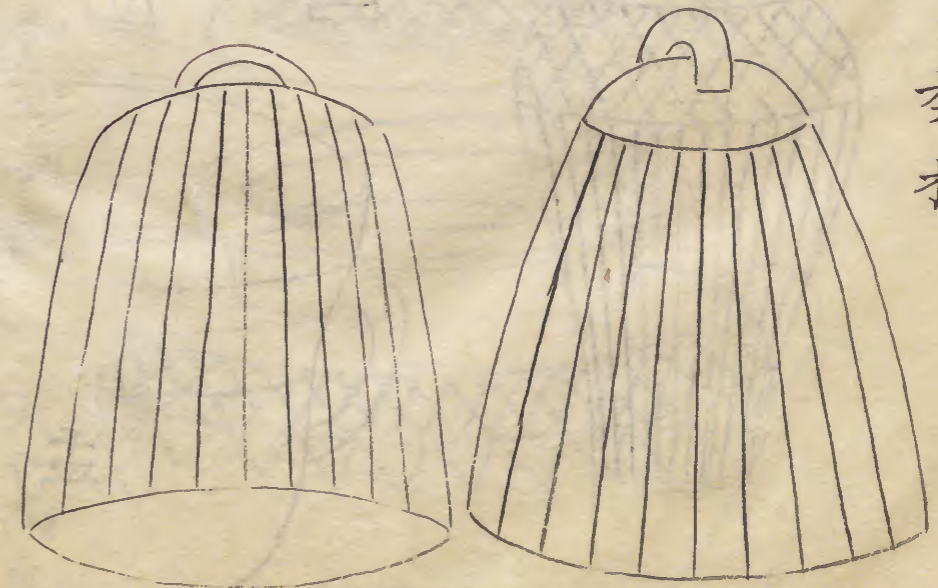
玉環瑛

李氏錄云昆字美引古
 衣服令大棗草帶玉鈞
 盤丑列切鹿廬玉具鈞
 此三代琯玉鈞也

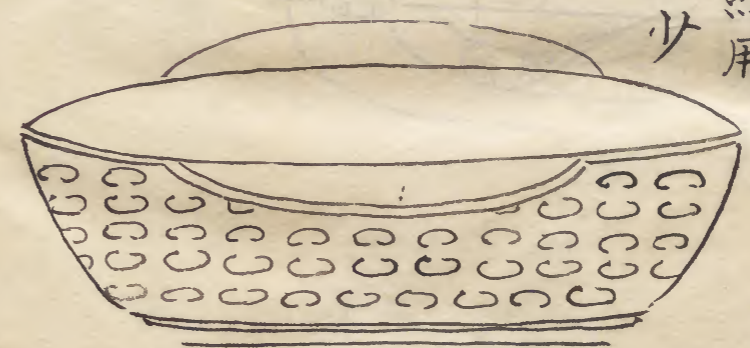
匱



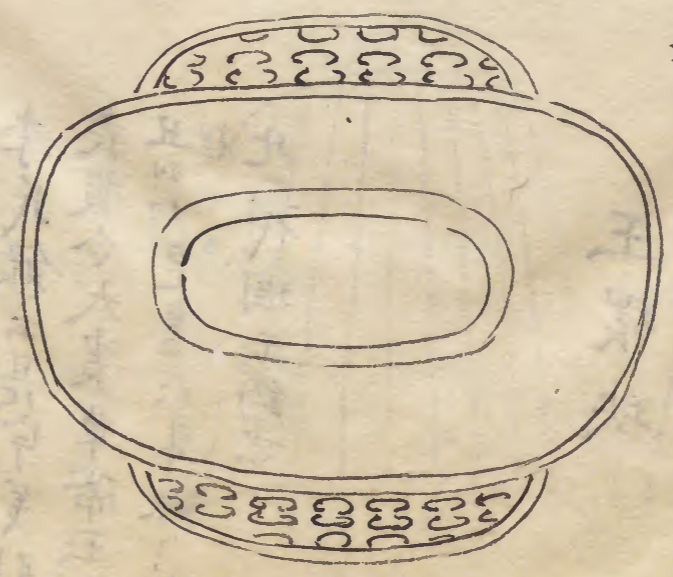
秦權



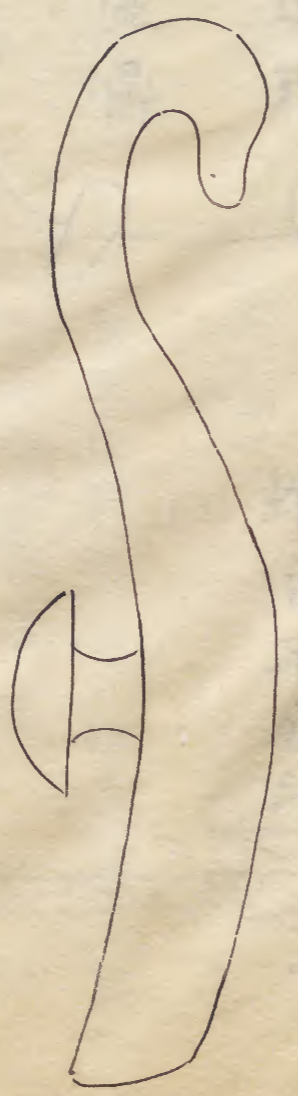
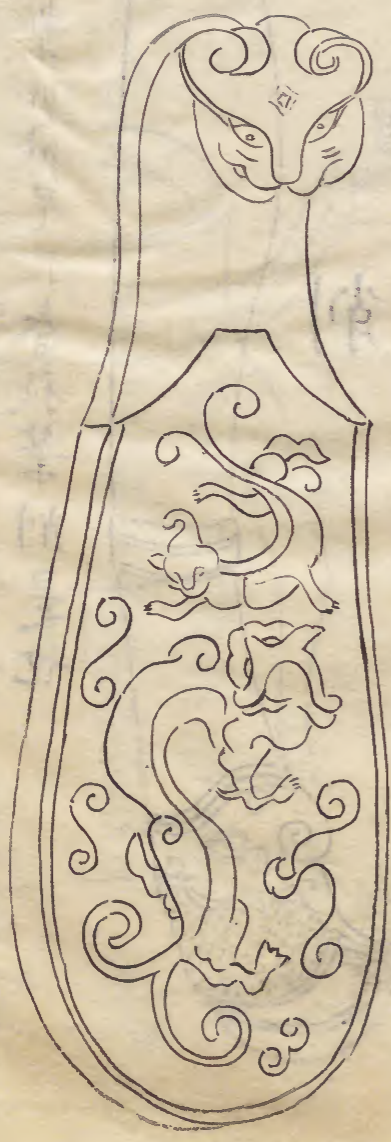
李氏錄云漢高祖以玉杯為太上皇壽以橫長故後人謂之玉東西
 按淮南子闚面於盤水則圜於杯隨面形不變其故有所圜有所隨者有所自觀之異也隨當讀楷他果狹長也器古杯之形皆狹長又聞使虜士大夫言遼主燕用玉杯狹長有舟其也子亦用之形制少殺

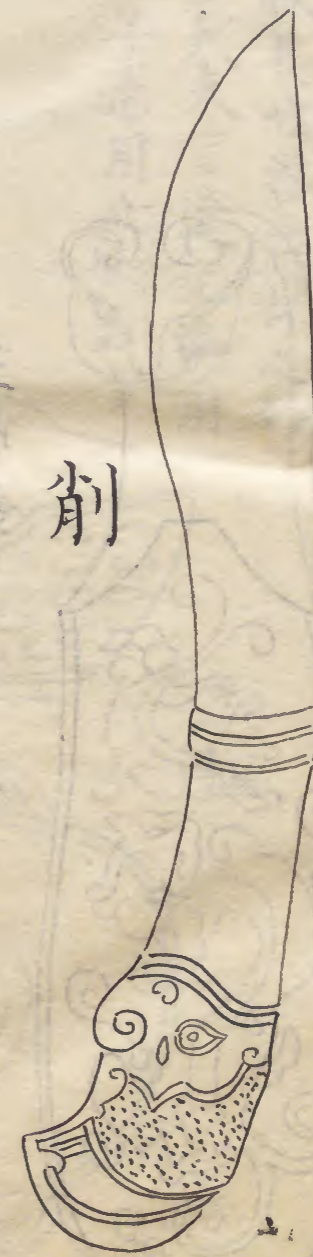


玉杯



玉帶鉤





考古圖削右得於京師以博為寸其長尺重三兩 李氏錄云考二記築氏為削長尺博寸合六面成視鄭氏誦之書力以減青削槩如仲尼作春秋筆削是也



深二寸三分縮四寸九分衡六寸有半旁一耳有承盤如舟有足黍量按之容三升四合

按古之杯形皆楷此器亦然周禮尊彝皆有舟注云若今承盤則漢之杯斝亦有承盤其形如舟即古舟也

溫壺



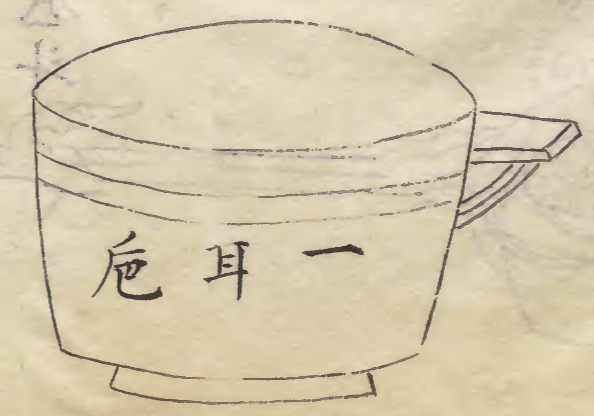
李氏錄云溫盂也以貼湯而空其只自環以上手主之環以下足主之

携瓶

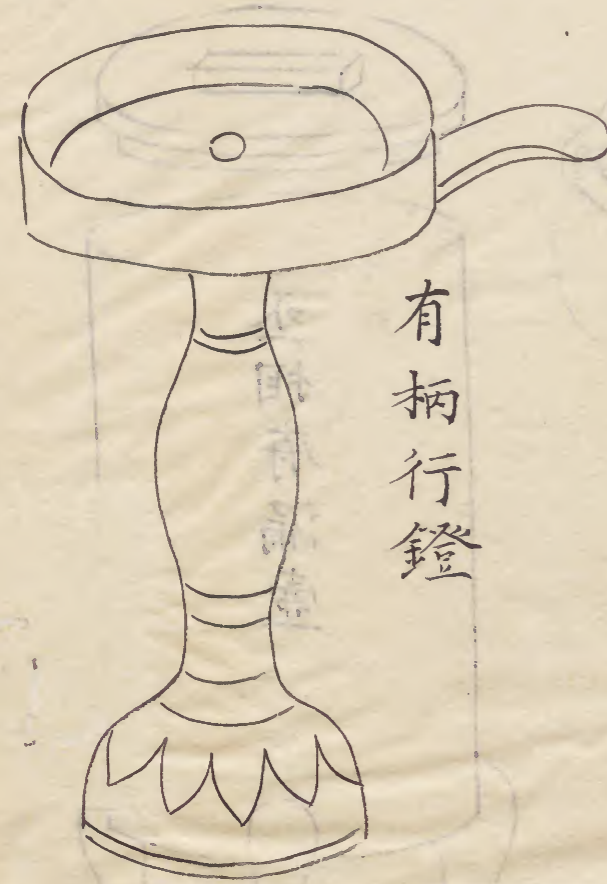


右得京師高八寸有半深七寸有半徑寸有三分容二升二合

李氏錄云吏部舊尚書子容頃使虜中於帳中嘗見之



一耳卮

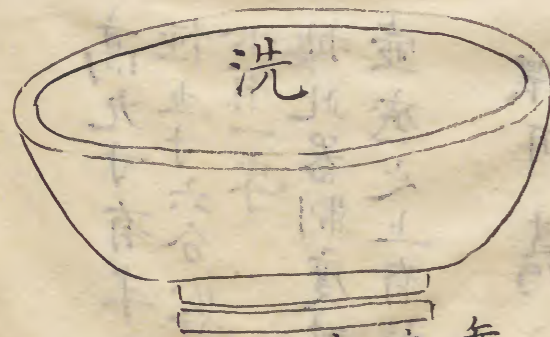


有柄行燈



仰錐長二分

燈 高尺有寸

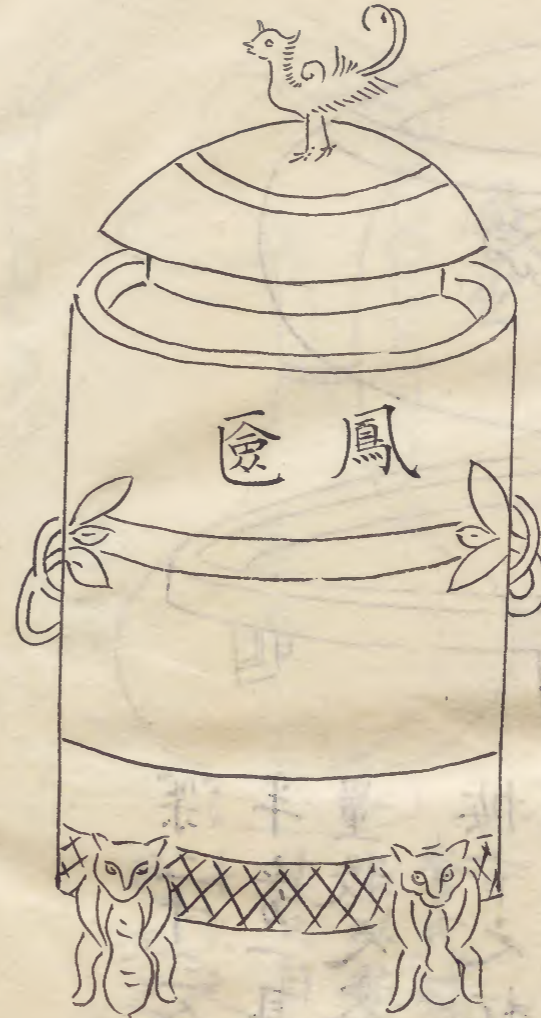


洗

舊禮圖洗乘槃
棄水之器其為
畫水紋菱花及魚
以節之



承燭槃



鳳匱

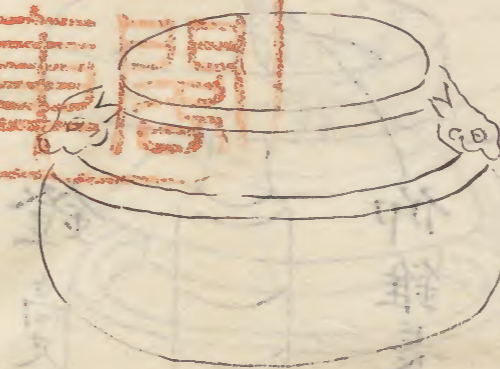


三足香爐

梁提



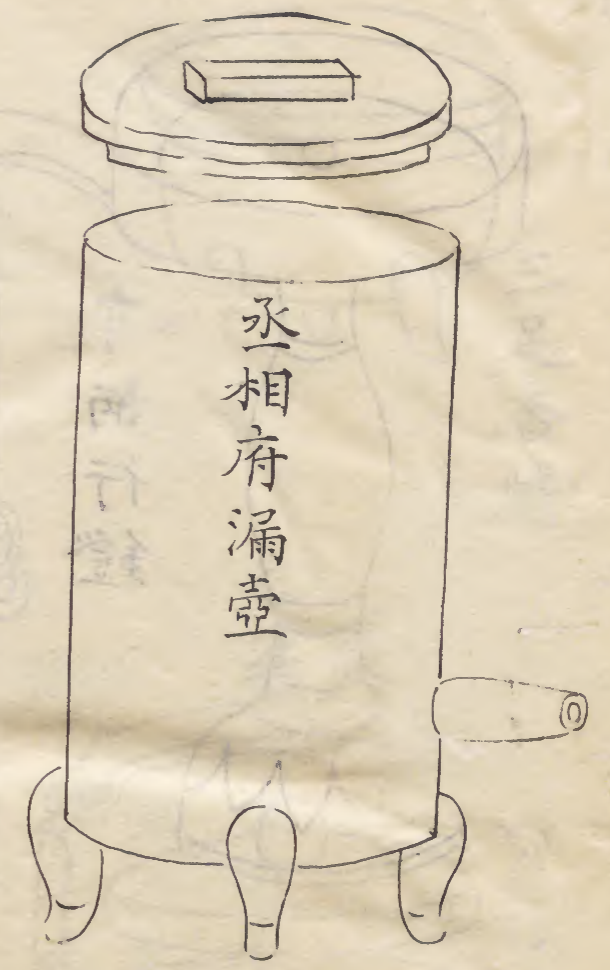
奩携



熏 爐



尔雅鼎鬲合
上謂之才鼎



丞相府漏壺

高九寸有半深七寸有半
徑五寸六分容五升有蓋銘
世有一字
按此器制度其蓋長方孔面
壺底之上有旅筭乃漏壺也

環耳才鬲

